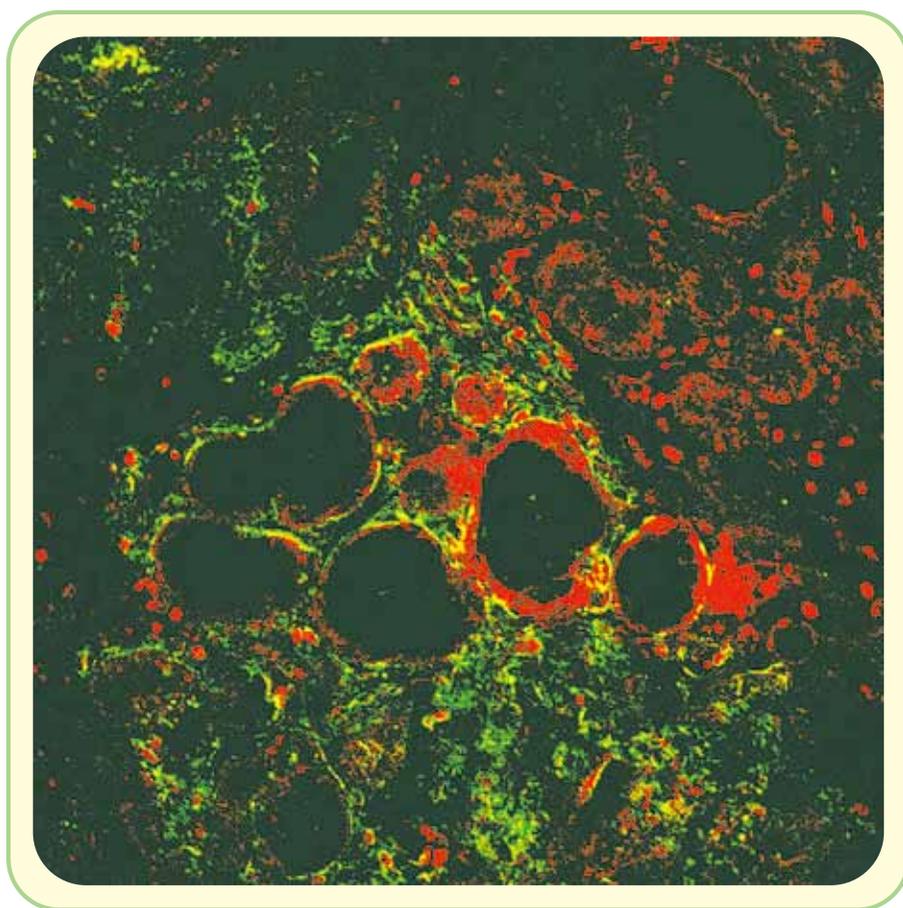


第18号

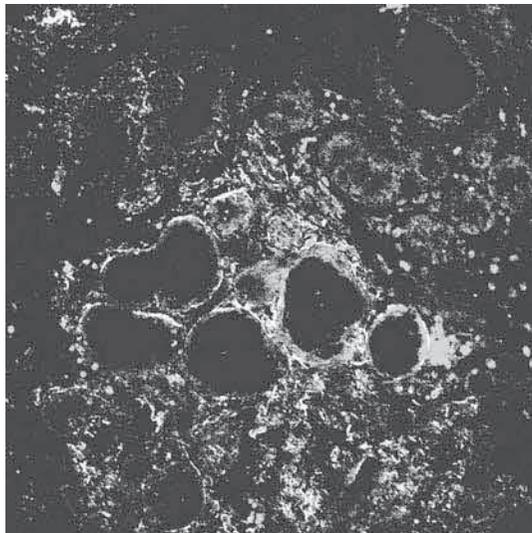
# さくらじま

2004



鹿児島大学大学院  
聴覚頭頸部疾患学講座  
(旧耳鼻咽喉科学教室)  
同門会誌

〔表紙写真の説明〕



ヒト（アレルギー性鼻炎例）下鼻甲介粘膜における腺組織と血管内皮細胞増殖因子（VEGF）の免疫組織化学。蛍光抗体法による2重染色。VEGF（緑）とVEGF受容体（R2）（赤）

（松根彰志，孫 東）

# 目

# 次

巻 頭 言	1
I. 同 門 会	3
II. 教室来訪者	5
III. 教室行事	
1. 共催の講演会	6
2. 第9回5大学耳鼻咽喉科ジョイントミーティング	9
3. 第6回「耳鼻咽喉科桜島フォーラム」	15
4. 第4回 鼻の日 市民講座	16
IV. 同門会報告	17
V. 地域医療報告	
1. 巡回診療	19
2. 身体障害者巡回相談	19
3. 学校保健（統計報告）	19
VI. 特殊外来通信	
1. アレルギー外来	22
2. 中耳炎外来	22
3. 副鼻腔炎外来	22
4. 頭頸部腫瘍外来	23
5. 補聴器・難聴耳鳴外来	25
VII. 病理集計	27
VIII. 各省庁諸研究	28
IX. 業 績	
1. 原 著	29
2. 総 説	30
3. その他	30
4. 国内学会発表	31
5. 国際学会発表	39
6. 学術論文要旨	41
X. 医局通信	
1. 新入医局員紹介	43
2. 医局人事	44
3. 学会報告	
① 第15回日本喉頭科学会総会・学術講演会（秋田）	45
② 第15回日本アレルギー学会春季臨床大会	45
③ 第104回日本耳鼻咽喉科学会・学術講演会	46
④ 第23回気道分泌研究会（2003.5.31）に参加して	46

⑤	第27回日本頭頸部腫瘍学会・第24回頭頸部手術手技研究会	47
⑥	第65回耳鼻咽喉科臨床大会	47
⑦	第33回日本耳鼻咽喉科感染症研究会	48
⑧	第16回日本口腔・咽頭科学会総会	48
⑨	第42回日本鼻科学会総会・学術講演会	49
⑩	第13回日本耳科学会学術講演会	50
⑪	第53回日本アレルギー学会総会	50
⑫	第36回甲状腺外科研究会	51
⑬	第55回日本気管食道科学会	51
⑭	第49回日本小児耳鼻咽喉科研究会	52
⑮	第14回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会	52
⑯	第16回気道病態シンポジウム	52
⑰	第16回日本喉頭科学会総会学術集会	53
⑱	第22回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会	53
⑲	The 5 <sup>th</sup> International Symposium on Tonsils and Mucosal Barriers of Upper Airways	54
⑳	The 8 <sup>th</sup> International Symposium on Recent Advance in Otitis Media In Florida, USA, June 3-7, 2003	55
㉑	22 <sup>nd</sup> ISIAN October 23-26, 2003, Seoul, Korea	56
㉒	The 7 <sup>th</sup> JAPAN - TAIWAN CONFERENCE IN OTOLARYNGOLOGY, HEAD AND NECK SURGERY (2003.10.29-31) に参加して	57
㉓	The 9 <sup>th</sup> Joint Meeting of Five Departments of Otolaryngology 2004.4.3~5	57
4. 関連病院便り		
①	国立病院九州循環器病センター	59
②	県立大島病院	60
③	県立北薩病院	61
④	県民健康プラザ鹿屋医療センター	62
⑤	藤元早鈴病院	66
⑥	出水市立病院	66
⑦	済生会川内病院	67
⑧	鹿児島生協病院	68
⑨	天辰病院	69
⑩	今村病院分院	70
XI. 関連病院住所と診療日案内		72
XII. 同門会及び教室員名簿		76
編集後記		92

## 巻 頭 言

黒 野 祐 一

先日我が家の電子レンジがついにこわれてしまいました。1991年4月、アメリカの留学から戻ったときに購入した代物ですから、かれこれ13年間も使用したことになります。家族5人の食生活を支えるその重労働に耐えつつ、よくもこれだけ長持ちしたものだ、昨今の電化製品の耐用性に感心しました。しかし、さらに驚かされたのはそのあとの出来事で、家内が新たに購入した少し大きめの新製品を観察してみると、かつてはその前面の扉を開くと食器はここに置いてくださいといわんばかりにその存在感を誇示していたターンテーブルがない。財布の紐が硬い家内がまた安物を買ってきたのだらうと思って伺うと、最近の上級機種にはそのようなものはついていないとのこと。ならば一応ブランド物でもあるしさぞかし値も張っただらうと、今度は逆に少しその出費が気になったところに、なんとわずか5万円しかなかったと聞いてとても信じられませんでした。先代の品は、当時体調があまり思わしくなかった家内のためにと20数万円をはたいて買ったのですから、電化製品のその性能と価格、両者のこの10年そこらにおける変化に驚愕しました。

文明の発達とくにIT文明の急速な進歩、というよりむしろ進化は我々の日常生活のあちらこちらで見受けられます。携帯電話はすでに会話をするためだけの道具ではなく、メールやインターネットさらには静止画や動画による情報交換が可能となり、もはや電話ではなくなりました。パソコンも現代人に欠かせない機器となり、ワープロやインターネットは言うまでもなく、学会発表でもそのほとんどがパソコンを用いて行われるようになりました。こうした講演形式が一般的になってまだそれほど経っていないにもかかわらず、投射型のスライドを見るとなんとなく懐かしく感じられるのは、まさにその進化の早さを物語っているのかもしれない。

文明の進歩や進化は、人類の幸福に大きく貢献するその一方で様々な弊害ももたらしています。航空機の発明は、昨年SARSに見るように、かつては予想できなかったほどに急速かつ広域に感染症を発生させ、自動車文明は人や物資の移動に改革をもたらしたのと引き換えに毎年多くの、イラクにおける戦死者よりもっと多くの人命を世界各地で奪っています。この春、鹿児島に待望の新幹線が開通し、鹿児島市から博多まで2時間少々でいけるようになり便利になったと歓迎されていますが、すでに騒音などによる住民の非難の声もあがっているようです。

携帯電話やパソコンの普及が人々を言葉や活字さらには芸術から遠ざけ、文明の進化が文化を退化そして破壊するとの警鐘も現実味を帯びてきつつあります。医療の現場に



おいても、最先端の医療器械の登場によって医師と患者の人間的な関係が希薄となり、さらには医師の臨床診断能力を低下させるのではないか、新たに開発される治療薬や遺伝子治療が本当に人々に幸福をもたらすのか、などとふと懐疑的になることもあります。文明と文化、その両者がともに人類発展の証であり、そしてこれが相乗的に人類の繁栄をもたらすはずだったのは過去のことであり、科学が加速度を増して進歩し進化する現在、あらためてその意義を考える必要があります。

家内が留守のため、新しい電子レンジに冷凍食品を放り込み、それが出来上がるまでのひととき、電子レンジという文明の利器と食文化の矛盾に気付きしみじみと考えた次第です。

&gt; - " &gt; / ~

## 同門会 吉 田 重 弘

平成16年3月13日、九州で、初めて新幹線が、鹿児島―新八代間に開通しました。それまで、つばめで、出水―鹿児島間は、1時間15分を要していたのに、25分に超短縮したので、随分得をした気分であります。しかし、70%がトンネルと云われ、ビジネスマンにとっては、効率最高と考えられるかもしれないが、私にとっては、今まで、しばし、旅情を楽しみながら、コーヒーを飲むことと、前夜の睡眠不足をカバーすべく、居眠りする時間があったのに、それが出来なくなったのは、少々残念であります。この原稿を書いている時、或る踊りの師匠さんから、家内へ電話があり、鹿児島帰りに居眠りをし、出水で降り、損なって、水俣を通り越して、八代まで行ったとありました。つばめでも、アルコールを飲み過ぎて、乗り越した話を聞いたことがありましたが、当分新幹線では、間々あることだと予想されます。

さて私の鹿児島生活期間は、鹿児島市に10年、出水市に40年と、熊本生活期間の約2倍になっております。ここで、独断と偏見をお許し願って、50年の鹿児島生活の中から、思い出の数点を述べてみます。

## 初めての鹿児島生活

昭和18年4月県立医専入学。その時桜島の偉容と錦江湾の素晴らしさに感動しました。幕末、福岡藩、勤王ソロ志士だった、平野国臣が詠んだ「我が胸の燃ゆる思いに比ぶれば煙はうすし桜島山」を頭に浮かべ、向学の沢意を新たにしたのでありました。

## 医専付属病院の全焼

病院は、米空軍爆撃により完全焼失し、病院長も犠牲となりました。そんな状況下で、戦後は、野戦病院さながらの診療を余儀なくされましたが、病院の再建を目標として、鋭意努力してまいりました。

## 鹿児島県医師会僻地診療

昭和27年、身体障害者検診で、屋久島、種子島（約1週間）。昭和46年～61年、奄美大島の県立病院。長島、東町、下甌村3回。上甌村、与論島、南種子等に行きました。そこで、治療を求めている人々が、如何に多いかを知りました。

## 鹿児島県公害健康被害認定審査会

昭和49年～平成16年。平成16年現在、実申請者数2,359人（延4,038人）、認定者数490人と、県環境生活部環境政策課公表。審査委員として参加しましたが、何が真実かどうか

かを自問自答し、学問以外からも、多くを学ぶことができました。

鹿大耳鼻咽喉科学教室の教授

野坂，久保，大山，黒野氏と，出身大学の偉う逸材が就任され，伝統を重んじながら，個性的な教室作りに努力されてきました。その結果，教室の発展に，多大の貢献されたと感謝しております。

最後に，戦前，戦中，戦後を必死に生きぬいた者の一人として，申し述べたいのは，新たに医師のライセンスを得た若きドクターは，国境なき医師団等に参加するのもよし，それができなければ，是非共数年間，僻地診療を経験し，病気の解明は勿論の事，治療は病人が主体である事を真剣に認識して，患者さんに信頼される医師を目指してほしいと思います。

## Ⅱ. 教室来訪者

(平成15年 1月～12月)

8月 熊本大学医学部耳鼻咽喉科教授 湯 本 英 二

9月 宮崎医科大学耳鼻咽喉科教授 小 宗 静 男

9月 島根医科大学耳鼻咽喉科教授 川 内 秀 之

### 1. 共催の講演会

1. 第6回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会（1月30日）
  - （耳鼻咽喉アレルギー学術講演会）
  - 特別講演：「アレルギー（花粉症）について」
    - 荻野 敏 先生（大阪大学医学部 保健学科教授）
  - 一般演題：「当科における喘息を合併した
    - 好酸球性副鼻腔炎中耳炎症例について」
      - 早水 佳子 先生（鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科）
    - 「小児慢性副鼻腔炎におけるアトピー疾患の合併について」
      - 谷本 洋一郎 先生（鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科）
  
2. 第21回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会（2月13日～15日）鹿児島
  - ミニシンポジウム：「アレルギー性炎症における好酸球浸潤とVCAM-1」
    - 牛飼雅人，大堀純一郎，松根彰志，黒野祐一
  - シンポジウム：「NALT形成過程における組織構築の特異性」
    - 福山 聡，黒野祐一，清野 宏
  - ポスター：「口蓋扁桃および末梢血単核球におけるTLRの発現とその相違点」
    - 田中紀充，福山 聡，相良ゆかり
    - 宮之原郁代，牛飼雅人，黒野祐一
  - 一般演題：「好酸球性副鼻腔炎と好酸球性中耳炎を合併した症例について」
    - 早水佳子，松根彰志，積山孝祐，吉福孝介
    - 福岩達哉，出口浩二，黒野祐一
    - 「副鼻腔炎病態における低酸素と VEGF」
      - 孫 東，松根彰志，大堀純一郎，積山孝祐
      - 吉福孝介，牛飼雅人，黒野祐一
  
3. 第7回鹿児島県耳鼻咽喉科学術講演会（2月27日）
  - 特別講演：『新生児「聴覚検査」の現状とその問題点』－耳鼻咽喉科医の対応－
    - 市川 銀一郎 先生（順天堂大学医学部 耳鼻咽喉科教授）
  - 一般演題：「小児急性中耳炎の初期治療（続報）」
    - 牛飼 雅人 先生（鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科）

「新生児聴覚スクリーニング後の検査症例について」

鹿島 直子 先生 (鹿児島市立病院耳鼻咽喉科)

4. 第8回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 (3月13日)

特別講演: 「副鼻腔炎-最近の話題を中心に-」

間島 雄一 先生 (三重大学医学部 耳鼻咽喉科教授)

一般演題: 「当科における喉頭肉芽腫の治療成績と

powered instrumentの有効性」

福岩 達哉 先生 (鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科)

「出水地区におけるアレルギー性鼻炎・花粉症の現状について」

関 大八郎 先生 (出水市立病院耳鼻咽喉科)

5. 第9回鹿児島耳鼻咽喉科学術集会 (5月15日)

特別講演: 「音声障害の診断と治療」

久 育男 先生 (京都府立医科大学 耳鼻咽喉科教授)

一般演題: 「当科における喉頭乳頭腫の臨床的検討」

原田 みずえ先生 (鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科)

「当科における喉頭癌手術治療の現況」

岩坪 哲治 先生 (国立病院九州循環器病センター耳鼻咽喉科)

6. 第28回日耳鼻鹿児島県地方部会総会

第10回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 (6月14日)

特別講演: 「顔面神経麻痺のマネージメント

-薬物治療から手術治療まで-

村上 信五 先生 (名古屋市立大学大学院医学研究科感覚器・  
形成医学耳鼻神経感覚医学教授)

一般演題: 「咽後膿瘍を形成した扁桃周囲膿瘍の1症例」

田中 紀充 先生 (鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科)

「喉頭癌の治療成績に関する検討」

福岩 達哉 先生 (鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科)

「当院における鼻・副鼻腔手術」

福島 泰裕 先生 (末吉中央クリニック)

「当科における難聴・耳鳴り外来」

宮之原 郁代 先生 (鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科)

「滲出性中耳炎におけるアデノイド切除の有用性」

牛飼 雅人 先生（鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科）

7. 第18回九州連合地方部会学術講演会

第118回日耳鼻鹿児島県地方部会（7月19日～7月20日）

一般演題：「滲出性中耳炎と血管内皮細胞増殖因子（VEGF）の検討

積山幸祐，松根彰志，孫 東，牛飼雅人，黒野祐一

ポスター演題：「当科における上顎洞真菌症の検査と治療」

相良ゆかり，松根彰志，高木 実，黒野祐一

8. 第4回耳鼻咽喉科 鼻の日 市民講座（8月7日）

－いびきと睡眠時無呼吸症候群－

「こどものいびき，おとなの無呼吸」

宮崎 総一郎 先生（秋田大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科助教授）

9. 第11回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会（9月18日）

特別講演：「頭蓋底外科 ～頭頸部領域からのアプローチ～」

岸本 誠二 先生（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科  
頭頸部外科分野教授）

一般演題：「当科における急性喉頭蓋炎の治療」

宮下 圭一 先生（鹿児島大学医学部附属病院）

「当科における小児急性乳様突起炎症例について」

宮之原 郁代 先生（鹿児島大学医学部附属病院）

「髄膜腫による後迷路性難聴」

朝隈 真一郎 先生（朝隈耳鼻咽喉科医院）

10. 第12回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会（10月2日）

特別講演：「アレルギー性鼻炎の現状と将来」

藤枝 重治 先生（福井大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授）

一般演題：「副鼻腔炎を合併するアレルギー性鼻炎症例の検査成績と治療」

田中 紀充 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「アレルギー性鼻炎の滲出性中耳炎に及ぼす影響

－小児例における臨床的検討－」

相良 ゆかり 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

11. 第5回上気道アレルギー疾患を考える会（11月6日）

特別講演：「花粉情報の将来と04年の花粉」

村山 貢司 先生（気象業務支援センター 専任主任技師。  
NHK気象予報士）

12. 第14回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会（12月4日）

（第9回南九州上気道感染症臨床懇話会）

特別講演：「最近の上気道感染の起炎菌“薬剤耐性”治療戦略」

鈴木 賢二 先生（藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 耳鼻咽喉科）

一般演題：「アデノイド由来腺維芽細胞におけるNF- $\kappa$ B活性化とIL-8発現」

高木 実 先生（出水市立病院 耳鼻咽喉科）

「当科における深頸部膿瘍症例の検討」

宮下 圭一 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「Cowden病の鑑別を要した乳頭状扁桃肥大の1症例」

奥田 匠 先生（鹿児島市立病院 耳鼻咽喉科）

## 2. 第9回5大学耳鼻咽喉科ジョイントミーティング

平成16年4月3日（土）～5日（月）に鹿児島県医師会館を中心に開催されました。

1986年に韓国ソウルで第1回が開催されて以来、この間参加大学もYonsei大学（韓国）、National Taiwan大学（台湾）、関西医大、大分医大、鹿児島大学の5大学から、Ajou大学（韓国）、島根大学、金沢医大と3大学が加わり8大学の耳鼻咽喉科学教室による研究会へと発展してきました。鹿児島で主催させていただくのは今回で2回目です。

今回は、4月1日から3日にかけて日本医科大学の主催で開催された第10回日韓ジョイントミーティング（東京）から引き続きのスケジュールで行われました。3日の夕方より東急インで歓迎会が開催され、4日朝9時から県医師会館で各大学から寄せられた16演題の口演が行われました。大変熱心な質疑応答がなされ、予定時間の30分以上の延長となり13時10分に終了しました。午後は2時から市内バスツアーとし、焼酎工場や磯庭園の見学をしていただきました。夕方、城山観光ホテルで、記念撮影後7時30分から懇親・懇談会を開催いたしました。この時、午前中の16演題の中から、役員会の投票で選ばれた「ベスト演題賞」の発表が行われ、鹿児島大学の福岩先生が受賞しました。また、各大学のスライドを用いた自己紹介も行われ大変和やかな雰囲気の中で、交流を深めることができました。次回の開催を2006年、台湾で行うことも発表されました。

今回、日韓台3カ国の各大学から合計70名の参加者を得て開催されましたが、アカデ

ミックプログラムでは、若手の先生方を中心に発表がなされ、質疑や討論も実に活発で、日頃味わうことのできない英語での発表や討論、さらには親睦の場となったことは大変刺激的で貴重な体験となったと思います。

(文責：事務局 松根彰志)









April 3, 2004 熊襲亭 Kagoshima, Japan



The 9th Joint Meeting of Five Departments of Otolaryngology April 3-5, 2004 Kagoshima, Japan

### 3. 第6回「耳鼻咽喉科桜島フォーラム」

黒野教授の就任以来始められた耳鼻咽喉科桜島フォーラムも今回で6回目を迎えることが出来ました。今回は利便性を考慮してこれまでの鶴陵会館から場所を移して、県医師会館にて開催しました。年末のあわただしい時期ではありましたが、今回も多数の先生方に御参加いただきました。当日は以下のようなプログラムで行われました。

#### 第6回 「耳鼻咽喉科桜島フォーラム」プログラム

平成15年12月11日（木） 19：00～20：30

鹿児島県医師会館中ホール2

I. 開会の挨拶 黒野 祐一 教授

II. 症例検討（Moderator；松根彰志，牛飼雅人）

- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 挿管後の嘔声の鑑別診断          | Presenter<br>川島 雅樹 |
| 2. 器質的異常を認めない嘔声の診断      | 相良 ゆかり             |
| 3. 披裂部腫脹，声帯麻痺，発熱を反復した症例 | 吉福 孝介              |
| 4. 両側性上顎癌の治療経験          | 大堀 純一郎             |

III. 話題提供

上気道粘膜ワクチン研究の現状と展望 黒野 祐一 教授

前半の症例検討の部では、診断に難渋した症例や治療に苦慮した症例を中心にプレゼンテーションを行い、鑑別診断や検査法，治療法についてのディスカッションが行われました。活発な討論のなか、実地医家の先生方の貴重な御意見を伺うことが出来たと思います。後半の話題提供の部では、昨年7月に米国で経鼻インフルエンザワクチンが実用化されたことを受けて「粘膜ワクチン研究の現状と展望」と題し、黒野教授から当教室の最も重要な研究テーマである粘膜ワクチン研究について、基礎的なことから最新の事項まで話題提供致しました。本会も皆様方のおかげで、早6回を数える事になりました。これからも日頃貴重な症例を御紹介いただいている実地医家の先生方の御意見を伺う貴重な場として、益々発展させていきたいと考えています。次回も多数の先生方の御参加をお待ちしております。

（文責：牛飼）

#### 4. 第4回 鼻の日 市民講座

平成15年8月7日(木)15時30分より、鹿児島県医師会館の3階中ホールにて第4回鼻の日市民講座を開催しました。(入場無料)テーマは「いびき・睡眠時無呼吸症候群」でした。例年と異なり平日に行われ、台風接近がらみで天気は大荒れで大変な雨でしたが、定員100名の申し込みに対し、70名の参加者が駆けつけて下さり予定どおり開催できました。

以下の内容で、特別講演を企画し講演後は、参加者の皆さんから質問をお受けしました。

特別講演 「こどものいびき おとなの無呼吸」

講師 秋田大学医学部附属病院耳鼻咽喉科

助教授 宮崎総一郎 先生

宮崎先生は、豊富な症例経験から多くのビデオを準備していただき、具体的な症例を提示していただき参加者の皆さんにとって大変印象深く講演いただきました。いびきや睡眠時無呼吸は、高血圧や心臓病など生活習慣病の多くと密接に関係しており、まさに今日的な重大なテーマであることが再度認識されました。参加者の中には、実際に病院で本疾患の検査にもあたっておられる技師の方も多くおられました。

講演および質疑応答の後、企業の方々に協力いただき設置された検査機器やC-PAP等の治療器具の展示、説明コーナーも参加者の皆さんにご利用いただきました。

市民講座の終了後、呼吸器内科、精神科、耳鼻咽喉科など本領域と関連ある診療科の先生方と宮崎先生との懇親、懇談の場を設けました。ここでは、話題提供として「秋田県での本疾患の診断と治療の各科連携、ネットワークの現状」について宮崎先生にお話いただきました。

今後とも、鹿児島県での本疾患の一般市民に対する啓蒙活動や医療サイドの情報交換、連携のための場作りを積極的に進めていくことの重要性を痛感した次第です。

(鼻の日市民講座 事務局 松根彰志)

### 同 門 会 総 会

平成16年1月17日（土）午後5時より鹿児島県医師会館の3階中ホール（1）にて、総会員数120名のうち、73名の先生方の出席を得て、同門会総会が開催されました。平成15年度の事業報告並びに会計報告さらには平成16年度の事業計画ならびに予算案が承認されました。

総会の終了後、学術講演会を開催しました。一般演題の部、特別講演の部と内容は以下の如くでした。

#### 一般演題

座長 松根彰志（鹿児島大学）

頭頸部癌頸部リンパ節転移検討におけるPETの有用性

林 多聞（鹿児島大学）

鼻閉で発症したサルコイドーシスの1例

西元 謙吾（県立大島病院）

小児甲状腺癌の3症例

平瀬 博之（鹿屋医療センター）

小児アレルギー性鼻炎に対するレーザー治療

上野 員義（うへの耳鼻咽喉科クリニック）

当科における前頭蓋底手術症例

花牟礼 豊（鹿児島市立病院）

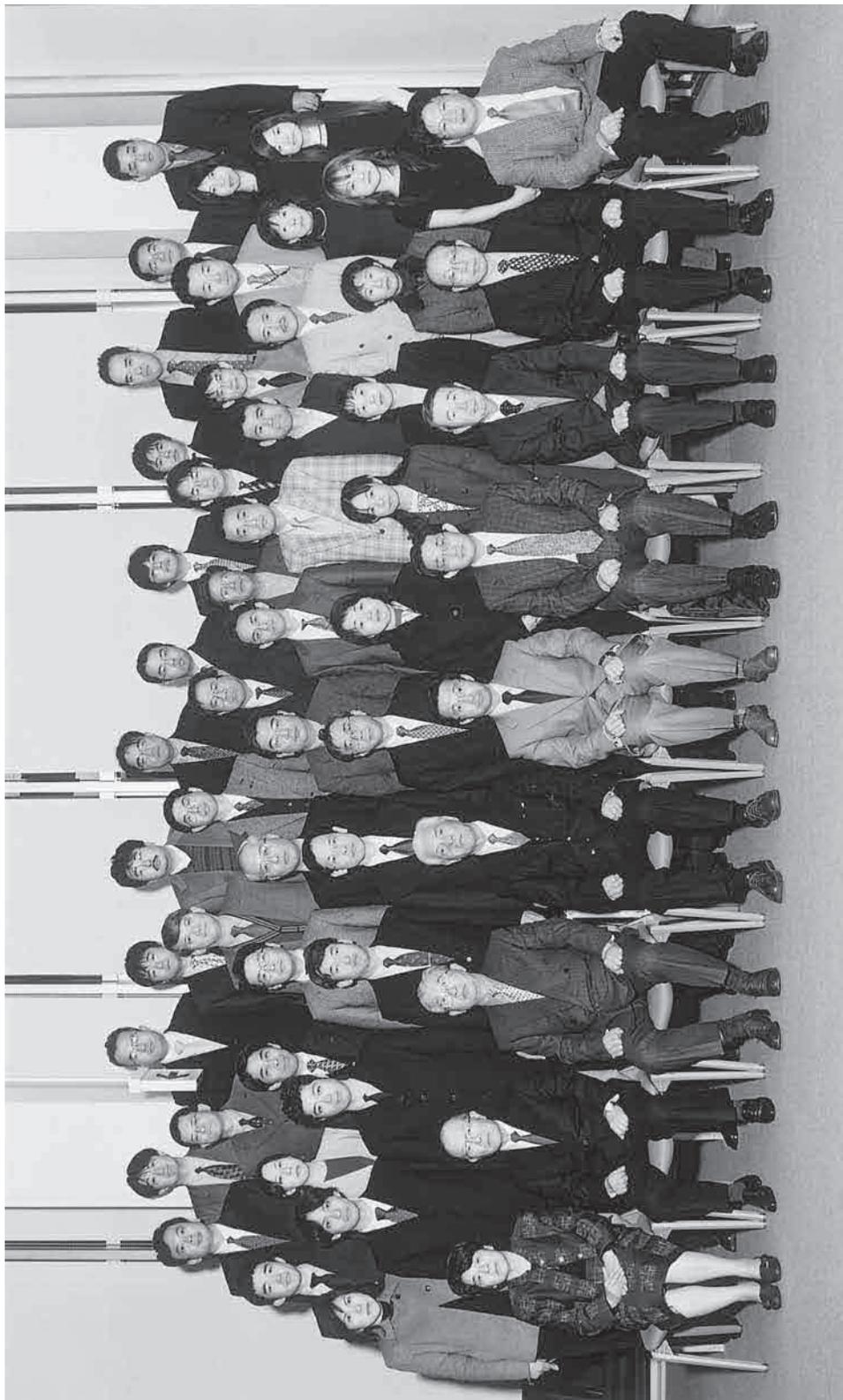
#### 特別講演

座長 黒野祐一（鹿児島大学大学院 教授）

「聴力改善手術と人工中耳・人工内耳医療の接点」

東野 哲也 先生（琉球大学医学部耳鼻咽喉・  
頭頸部外科学分野教授）

例年どおり記念撮影も行われ、午後8時から同会館、3階中ホール（2）にて新年会も兼ねた懇親会が開催されました。



鹿兒島大学大学院聴覚頭頸部疾患学教室同門会総会 平成16年1月17日 於、鹿兒島県医師会館

## 1. 巡回診療（県医務課）

- 三島村 （6月24日～6月29日）
- 下甑村 （7月9日～7月11日）
- 上甑村 （12月1日～12月3日）
- 十島村 （7月14日～7月18日）

## 2. 身体障害者巡回診療

- 1月 大隅町，与論町
- 2月 南種子町，中種子町，西之表市，阿久根市，隼人町
- 4月 高山町，吉松町
- 5月 高尾野町，十島村
- 6月 末吉町，三島村
- 7月 国分市，始良町，下甑村，鹿島村
- 8月 金峰町，笠利町，龍郷町，大和村
- 9月 宮之城町，笠沙町，喜界町
- 10月 鹿屋市，住用村，宇検村，瀬戸内町
- 11月 川内市，横川町
- 12月 市来町，志布志町

## 3. 学校保健（統計報告）

H15年4月～10月にわたり，当科において鹿児島県下の耳鼻咽喉科学学校検診を行った。

### 〈対象地域〉

鹿児島市，阿久根市，垂水市，西之表市，穎娃町，中種子町，南種子町  
末吉町，輝北町，財部町，志布志町，有明町，大崎町，松山町

### 〈受診者数〉

小学生7,861名，中学生4,826名，高校生（甲南高校生1年生のみ）363名，  
大学生（県立短期大学のみ）554名

### 〈対象疾患〉

耳垢栓塞，滲出性中耳炎，慢性中耳炎，鼻中隔彎曲症，鼻アレルギー，慢性鼻炎，  
慢性副鼻腔炎，慢性扁桃炎，扁桃肥大の9疾患

### 〈結果〉

疾患別有病率では，小中学生とも，圧倒的に鼻アレルギーが多く，次いで耳垢栓塞が

多かった。(図1) 前年度も鼻アレルギーが圧倒的に多く、有病率も同程度であった。

耳疾患では、どれも学年があがるにつれて低下傾向を示した。(図2)

鼻疾患では、鼻アレルギーにおいて学年が上がるにつれてやや増加傾向を示した。

(図3)

扁桃肥大は学年による変化はなかったが、慢性扁桃炎は学年があがるにつれて、低下傾向を示した。(図4)

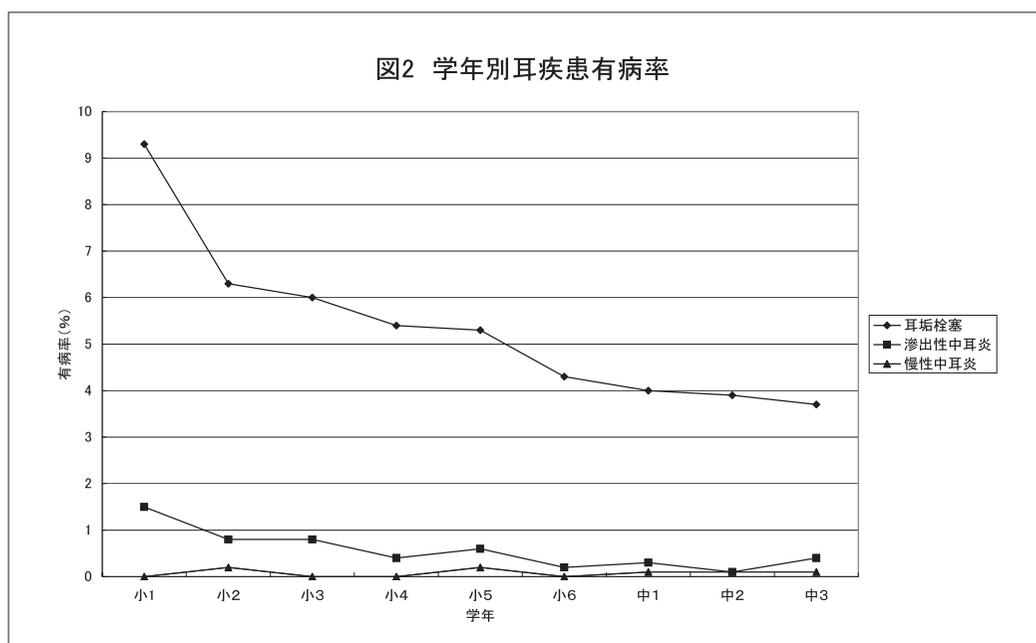
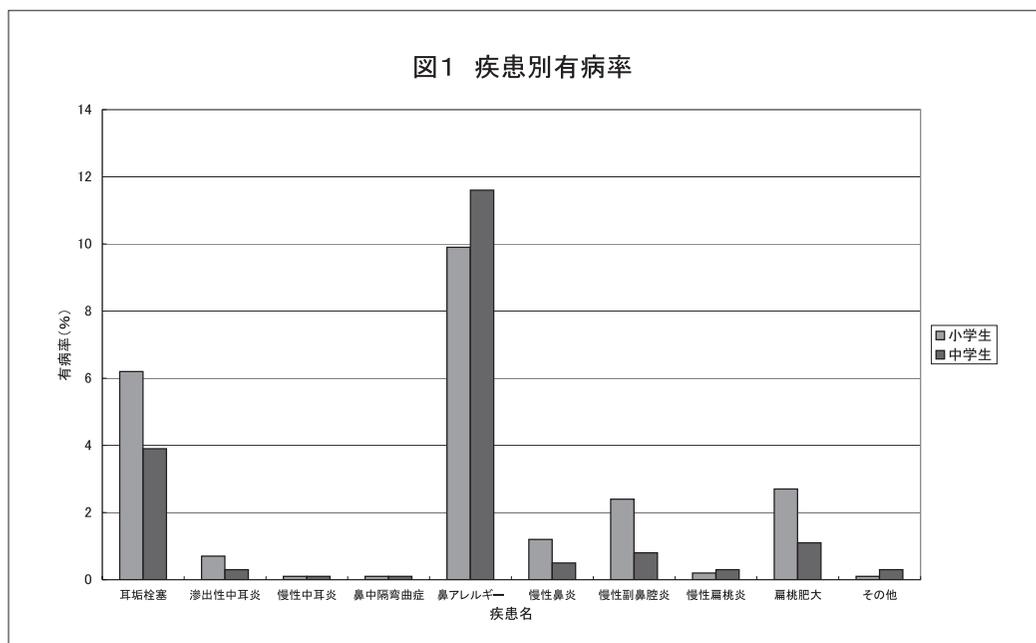


図3 学年別鼻疾患有病率

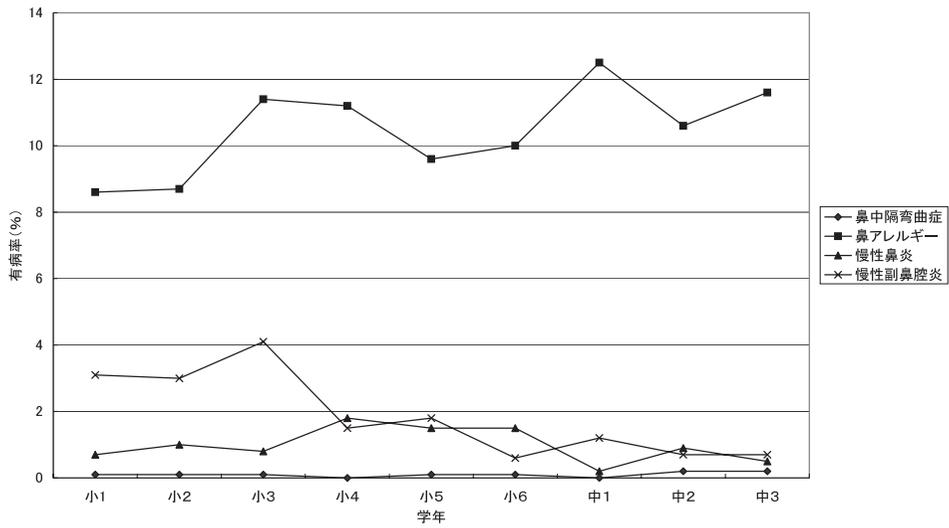
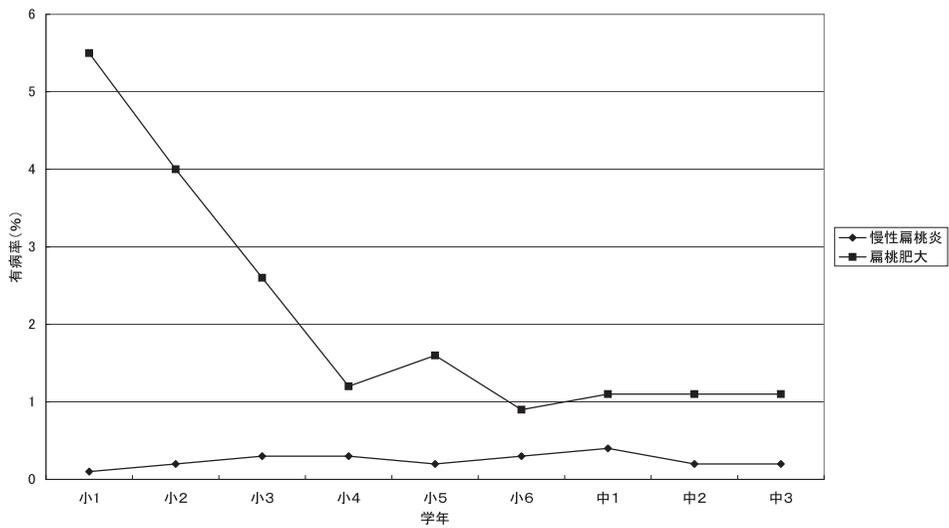


図4 学年別扁桃疾患



### 1. アレルギー外来

当科におけるアレルギー外来は毎週月曜日午後2時～4時、予約制で行っております。

アレルギー外来は1997年に設置され、今年で7年目を迎えておりますが、前回号でお示したように、年々アレルギー外来の受診者数は増加傾向にあります。

2001年から始まった慢性副鼻腔炎や鼻茸の症例に対して、アレルギーの関与を検索したデータも引き続きデータベース化して登録しております。

特殊外来としてアレルギー外来の役割としては、引き続きスギ花粉症の患者様に初期治療をすすめていくこと、ハウスダスト、ダニの症例について減感作治療をすすめていくこと等が挙げられると思います。また、他の特殊外来、中耳炎外来、副鼻腔外来と合わせ、今後、治療及び、臨床研究をすすめていきたいと考えております。

(文責：相良ゆかり)

### 2. 中耳炎外来

黒野教授の赴任以来、小児の症例を中心に滲出性中耳炎や急性中耳炎の臨床的および基礎的研究を行って来ました。臨床的には、これまで小児急性中耳炎の初期治療についての検討やアデノイド切除の滲出性中耳炎に対する有用性についてに検討を行って来ました。基礎的には、アデノイド線維芽細胞におけるサイトカイン発現のメカニズムについて転写因子を含めて検討するとともに、滲出性中耳炎症例の中耳貯留液や上咽頭液のサイトカインやVEGFの解析を行い、滲出性中耳炎の病態解明に努めています。このように小児急性中耳炎や滲出性中耳炎は当教室の大事なテーマのひとつですが、大学病院の性格上なかなか症例が集まらない状態が続いています。反復性中耳炎や滲出性中耳炎の難治例等ありましたら、当科へ御紹介を何卒宜しくお願い申し上げます。

(文責：牛飼雅人)

### 3. 副鼻腔炎外来

最近副鼻腔炎病態で、最も問題になっているのは鼻茸や副鼻腔粘膜に好酸球浸潤を強く伴う難治性の副鼻腔炎で、森山等(慈恵医大)が「好酸球性副鼻腔炎」と呼ぶことを提唱している疾患です。これとほぼ同じ疾患と思われる病態について、Stamberger等は「びまん性好酸球優位型ポリープ症」と呼び、Kennedy等は極めて粘濁でニカワ状の分泌物に注目して「好酸球性ムチン産生性鼻副鼻腔炎」と呼んでいます。現在、本疾

患の臨床研究が本外来の1つの柱となっています。

好酸球性副鼻腔炎では、アレルギー性鼻炎の合併は少数で、その病態へのI型アレルギーの関与は否定的です。非アトピー型感染型喘息との合併が高頻度に認められ、「アスピリン喘息」も含めたものとしてとらえることが現時点では一般的です。当科での好酸球性副鼻腔炎症例を対象とした、ステロイドの適正使用を検討した臨床成績を「日本耳鼻咽喉科学会」、「日本鼻科学会」、「日本アレルギー学会」などで報告し、東京大学医科学研究所の井ノ上逸朗助教授との「遺伝子多型」に関する共同研究を、鹿児島大学の倫理委員会の承認を経て行っています。

一方、アレルギー性鼻炎の副鼻腔炎の合併の問題は、小児において大変重要な問題と考えられ、小児における「アレルギー性鼻副鼻腔炎」(広義)とアトピー疾患の背景の関係を検討し「日本耳鼻咽喉科学会」、「日本鼻科学会」、「日本アレルギー学会」などで報告してきました。「鼻炎が先か、アトピー型喘息が先か。」も含め、従来の「アレルギーマーチ」の概念には必ずしもとらわれず、小児における新しい鼻副鼻腔炎の考え方を「成長と発達」の角度から見ていければ良いと考えています。今後小児の鼻副鼻腔炎の診療が変わっていく可能性を強く感じています。

好酸球性副鼻腔炎の問題にしても、小児を中心としたアトピー素因とアレルギー性鼻副鼻腔炎の問題にしても、共通しているのは気道系全体を1つの単位としてとらえ、全身的な免疫学的または炎症論的な検査値データを検討しながら診断と治療を行っていくという姿勢が重要であるという点です。従来の耳鼻咽喉科診療の枠を越えた診療形態が、「学問」と「エビデンス」をもとに構築されていく可能性を痛感しています。

(文責：松根彰志)

#### 4. 頭頸部腫瘍外来

当科では頭頸部腫瘍治療後の患者さんを対象にした特殊外来「頭頸部腫瘍外来」を毎週木曜日の午前中に行っています。診察担当医師は、入院中の主治医団が当たることを基本としておりますが、外来に来られる患者様も入院中からなじみのある医師が引き続き窓口になるということで、色々と気軽に相談できると御好評を頂いております。

以下に、この一年間の総括と頭頸部腫瘍に対する当科の特色をまとめてみました。

##### (1) 再建手術について

まずこの一年間の外科的療法について簡単にのべますと、平成15年4月から平成16年3月までの1年間に手術療法を行った頭頸部悪性腫瘍症例は60例であり、このうち23例に遊離組織移植を行い生着率は100%でした。過去5年間の遊離組織移植例は57例であ

り、生着率は93%でした。このように遊離組織移植が再建のスタンダードとなっていることは周知の通りですが、重複癌で既に頸部手術操作が加えられている例や、重篤な合併症のある症例などでは血管吻合の困難な例も見られ、そのような症例における大胸筋皮弁という選択肢はまだまだ重要な位置を占めるものと考えています。

## (2) 機能温存手術の積極的な導入

近年当科では患者の QOL の向上を図る目的で、喉頭部分切除術を積極的に取り入れています。喉頭部分切除術を導入した1997年以降で当科にて治療を行った喉頭癌症例は74例ですが、この中で15例に対して部分切除術を行いました。その内訳は、初期治療での部分切除7例（水平部分切除5例、垂直部分切除5例）、再発例での部分切除5例（すべて垂直部分切除）でした。全例で術後の呼吸機能及び嚥下機能は良好であり、いずれも現在まで再発を認めておりません。部分切除術の選択においては腫瘍の進展範囲の詳細な診断が不可欠であり、そのため術前の顕微鏡下喉頭直達鏡検査がより重要な地位を占めています。また LEICA 社の手術用顕微鏡による観察、DVD レコーダーによるデータ記録、大画面液晶モニターと DVD プレーヤーによるカンファレンスなど、新しい機器の導入が診断・治療の向上に一役買っているように思われます。

その他に下咽頭癌に関しても、喉頭温存および下咽頭部分切除術の適応の有無を常に検討しつつ治療に取り組んでいます。

## (3) FDG-PET 検査の有用性

頭頸部腫瘍に対する治療を行った後の外来経過観察を行う際に、当科では FDG-PET による全身検索を中心に行っております。PET によりこれまでの検査ではわからなかった他臓器転移が明らかになったのはもちろんですが、頸部リンパ節転移もかなり明確に描出されることがわかり、径10mm以下のリンパ節でも転移性リンパ節と診断できるようになりました。しかしながら、微小転移リンパ節をどこまで描出できるかという点は、いまだに明らかとなっておりません。この問題については、摘出したリンパ節の組織学的検討を行い、術前の PET と照らし合わせて検討することを林多聞先生が進めております。

## (4) エコーを中心とした経過観察

外来にエコーが導入されて3年近くたちますが、少しでも怪しい印象があればすぐにエコーで確認できるという環境は、頭頸部腫瘍の術後経過観察には不可欠なものであると痛感しています。エコー診断を触診やCT読影にフィードバックさせることでこれらの技術をより効果的に高めることができますし、研修医も早くからエコー診断に慣れる

ことができるので教育面でも重要なものであると思われます。

#### (5) 外来化学療法の導入

平成14年より腫瘍外来では術後の経過観察に加え、根治治療後の再発予防目的に TS-1 を用いた内服化学療法を行っています。まだ対象症例は7例ほどと少ないですが、今後は外来化学療法をもっと積極的に取り入れ、単なる観察だけの腫瘍外来から一歩踏み込み治療も行える腫瘍外来を目指したいと考えております。

当科における頭頸部腫瘍症例数は年々増加傾向にあり、さらに従来よりも多くの合併症を持った症例や高齢疾患など、その治療選択に難渋する例も増えてきました。それらの悪条件を克服し、さらに鹿児島県の頭頸部癌治療成績向上のために、今後ますます努力していきたいと考えております。  
(文責：福岩達哉)

## 5. 補聴器・難聴耳鳴外来

難聴・耳鳴り外来

毎週金曜日（午後）

補聴器外来

毎週月（終日）・水（午前）

2003年4月より難聴・耳鳴り外来を開設いたしました。主に TRT (Tinnitus Retraining therapy) を中心に行っています。TRTは、1980年代後半 Jastreboff によって唱えられた耳鳴の神経生理学的モデルにもとづいて、1988年に Hazell (英国)、1990年に Jastreboff (米国) によってはじめられた指向性カウンセリングと音治療を組み合わせた耳鳴治療法です。この治療では、耳鳴を消失させるのではなく耳鳴にたいして順応をおこさせることを目的としています。

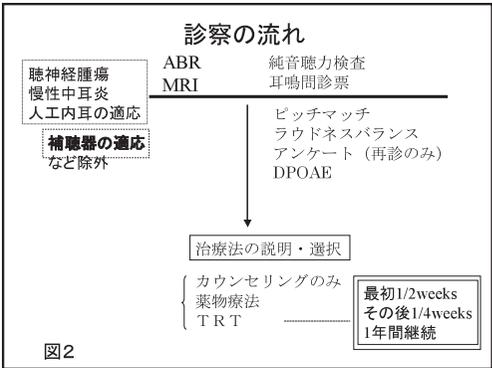
2003年4月より2004年5月までに84名の新患があり、内訳は図1に示します。また、当科外来初診からの流れは、図2のようになっております。現在は、まだまだ短期の結果が中心ですが、改善率は、50~80%です。今後はさらに症例を重ねて長期経過を見ていきたいと思っております。

補聴器外来では、2003年には81名の新患が有り、のべ受診回数は、146回でした。まず、純音聴力検査、語音聴力検査、歪成分耳音響放射にて医学的判定をおこなっています。補聴器をすでに保有している患者さんでは、補聴器が適合しているか、調整が必要かについて検討し、補聴器希望の患者さんには、もっとも適合する補聴器の選定、指導を行っています。  
(文責：宮之原郁代)

**難聴・耳鳴り外来を受診した84症例の内訳  
(2003年4月～2004年5月)**

1. TRTを選択 37例	
3ヶ月以上継続	25例
1～3ヶ月継続	3例
脱落	9例
2. その他の治療を選択 6例	
薬物療法	5例
その他	1例
3. 治療しなかった 41例	
診察を受けて安心した	3例
診察を受けて耳鳴りが消失	1例
ノイズジェネレーターの装着感が悪い	6例
その他	31例

図1



病棟		400		
外来		290		
1)腫瘍	悪性		良性	
喉頭腫瘍	SCC	36	squamous papilloma	4
	SCC in situ	2		
	basaloid SCC	1		
甲状腺腫瘍	papillary carcinoma	2	follicular adenoma	1
	follicular carcinoma	1	adenomatous goiter	5
上咽頭腫瘍	SCC	5		
中咽頭腫瘍	SCC	16		
下咽頭腫瘍	SCC	30		
上顎洞腫瘍	SCC	13		
	adenosquamous carcinoma	1		
篩骨洞腫瘍	SCC	1		
鼻腔腫瘍	SCC	6	squamous papilloma	3
	adenoid cystic carcinoma	1	inverted papilloma	3
	sarcoma	1	papilloma	1
			hemangioma	1
			xanthogranuloma	1
			chondromesenchymal hamartoma	1
耳下腺腫瘍	adenocarcinoma	2	pleomorphic adenoma	8
	myoepithelial carcinoma	1	Warthin tumor	8
	SCC	1		
顎下腺腫瘍	adenocystic carcinoma	2	pleomorphic adenoma	2
舌腫瘍	SCC	13		
	SCC in situ	1		
	rhabdomyosarcoma	1		
歯肉腫瘍	SCC	4		
口腔底腫瘍	SCC	3		
頬粘膜腫瘍	SCC	2		
頸部腫瘍			lymphangioma	1
上顎腫瘍	SCC	2		
下顎腫瘍	osteosarcoma	1		
中耳腫瘍	SCC	1		
皮膚腫瘍	SCC	1		
頸部リンパ節転移	malignant melanoma	1		
原発不明	SCC	1		
2)嚢胞性疾患				
喉頭	cyst	6		
	saccular cyst	1		
	lymphoepithelial cyst	1		
鼻	nasolabial cyst	1		
甲状腺	follicular cyst	1		
口蓋扁桃	cyst	1		
下口唇	retention cyst	1		
頸部	epidermal cyst	1		
	pseudo cyst	1		
	branchial cyst	1		
3)前癌病変				
	dysplasia	23		
	leukoplasia	1		
4)その他				
	malignant lymphoma(non-Hodgkin)	6	(上顎洞2, 鼻腔3, 口蓋扁桃1)	
	cholesteatoma	9		
	sjogren syndrome	10		

(平成16年度 6月現在)

### 文部科学省科学研究費

#### 基盤研究(B)(2)

経鼻免疫応答の多様性と増幅機構に関する研究 —粘膜ワクチンの実用化に向けて—

代表者 黒野祐一

分担者 松根彰志 牛飼雅人 西元謙吾

#### 基盤研究(C)(2)

おとり型核酸医薬(デコイ)を用いた滲出性中耳炎に対する遺伝子治療の検討

代表者 牛飼雅人

分担者 黒野祐一 松根彰志

### 厚生労働省科学研究費補助金

#### 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業

アレルギーにおける粘膜免疫を基点とした全身・皮膚免疫クロスネットワークシステムの解明を予防への応用に向けた基礎的研究

代表者 清野 宏(東京大学医科学研究所 炎症免疫学)

分担者 黒野祐一

## 1. 原 著

- (1) 田中紀充, 福山 聡, 牛飼雅人, 黒野祐一: 細菌抗原に対する口蓋扁桃の免疫応答, 日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌 21(1): 176-179, 2003
- (2) Shoji Matsune, Motoko Kono, Dong Sun, Masato Ushikai, and Yuichi Kurono: Hypoxia In Paranasal Sinuses of Patients with Chronic Sinusitis With or Without the Complication of Nasal Allergy, Acta Otolaryngol 123: 519-523, 2003
- (3) 黒野祐一: アレルギー性副鼻腔炎の病態に関する考察, 耳鼻臨床 96(8): 657-663, 2003
- (4) Minoru Takaki, Masato Ushikai, Kohji Deguchi, Kengo Nishimoto, Shoji Matsune, Yuichi Kurono: The Role of Nuclear Factor- $\kappa$ B in Interleukin-8 Expression by Human, Adenoidal Fibroblasts, Laryngoscope 113: 1378-1385, 2003
- (5) Tetsuji Iwatsubo, Norimitsu Tanaka, Tamon Hayashi, Satoshi Fukuyama, Yuichi Kurono: The role of palatine tonsil In the pathogenesis of pustulosis palmaris et plantaris, International Congress Series 1257: 167-170, 2003
- (6) Norimitsu Tanaka, Satoshi Fukuyama, Masato Ushikai, Keiichi Miyashita, Yuichi Kurono: Immune responses of palatine tonsil against bacterial antigens, International Congress Series 1257: 141-144, 2003
- (7) 田中紀充, 出口浩二, 黒野祐一: 脳出血をきたした睡眠時無呼吸症候群の1例, 日本口腔咽頭科学会 15(2): 179-184, 2003
- (8) Yoshiko Hayamizu, Ikuyo Miyanojima, Satoshi Fukuyama, Koji Deguchi, Yuichi Kurono: Clinical aspects of Inferior pole; peritonsillar abscess, International Congress Series 1257: 127-130, 2003
- (9) Park EJ, Takahashi I, Ikeda J, Kawahara K, Okamoto T, Kweon MN, Fukuyama S, Groh V, Spies T, Obata Y, Miyazaki J, Kiyono H: Clonal expansion of double-positive intraepithelial lymphocytes by MHC class I-related chain A expressed in mouse small intestinal epithelium, J Immunol 171(8): 4131-4139, 2003
- (10) 福山 聡, 識名 崇, 黒野祐一, 清野 宏: NALT の形成と機能発現における LT と NIK の役割, 耳鼻咽喉科免疫アレルギー 21(1): 15-18, 2003

## 2. 総 説

- (1) 黒野祐一, 出口浩二: 私の処方 file.1 「耳鳴り」, 脳神経外科速報 13(1): 109-111, 2003
- (2) 牛飼雅人, 黒野祐一: 扁桃手術におけるトラブルの予防と対応, JOHNS 19(3): 403-406, 2003
- (3) 松根彰志, 宇宿功市郎, 黒野祐一: 新感染症 1. HTLV-I (特集・耳鼻咽喉科の新興・再興感染症 up date), MB ENT 24別冊: 8-12, 2003
- (4) 松根彰志, 積山幸祐, 黒野祐一: 外傷 - 眼窩吹き抜け骨折 - 鼻副鼻腔疾患の MRI 診断マニュアル. 夜陣紘治 編集企画 Monthly Book ENTONI MB ENT, 28: 32-37, 2003
- (5) 松根彰志, 黒野祐一: 聴覚, 嗅覚, 味覚, 中高年女性の五感五官の変化と疾患 研修医/コ・メディカルのための中高年女性医学入門 - Healty Ageing をめざして -, 永田行博 企画・編集 医薬ジャーナル社 110-116, 2003
- (6) 宮之原郁代, 黒野祐一: 耳痛の鑑別診断, 日本医事新報 4137: 8-12, 33-36, 2003
- (7) 黒野祐一, 松根彰志: 小児喘息と副鼻腔炎の合併例, Allergy Update 15(1): 2003
- (8) 積山幸祐, 松根彰志, 黒野祐一: 好酸球性副鼻腔炎と好酸球性中耳炎を合併した 1 症例, アレルギーの臨床 23(13): 74(1060)-77(1063), 2003
- (9) 出口浩二, 宮下圭一, 黒野祐一: 耳鼻咽喉科における救急疾患, - 急逝喉頭蓋炎と扁桃周囲膿瘍 -, 鹿児島市医報 42(11): 7-10, 2003
- (10) 福山 聡, 清野 宏: 【免疫2004】免疫系の形成 NALT 組織形成機構のユニーク性, Molecular Medicine, 40 (臨増): 10-16, 2003
- (11) 福山 聡, 黒野祐一, 清野 宏: 上気道, 消化管における粘膜関連リンパ組織形成プログラムからみた粘膜免疫の特異性, 化学療法の領域 19(11): 1733-1739, 2003
- (12) 福山 聡, 黒野祐一: 上気道の生体防御機構, JOHNS 19(6): 779-782, 2003

## 3. その他

宮之原郁代

紙上診察室 「耳鳴り」

南日本新聞, 2003年4月16日

出口浩二

紙上診察室 「開いたままの口」

南日本新聞, 2003年12月22日

## 4. 国内学会発表

### (1) 特別講演

鹿児島県薬剤師会新春学術講演会 1月19日

「アレルギー性鼻炎の病態と薬物療法」

黒野祐一

長崎県花粉症フォーラム 2月6日

「上気道感染症におけるアレルギーの位置づけ」

黒野祐一

第14回医療センター症例検討会・特別講演 2月17日

「日常診療におけるめまいの診かた」

黒野祐一

第3回春季県央学術セミナー 2月20日 (厚木)

「上気道におけるアレルギー性炎症」

黒野祐一

曾於郡医師会学術講演会 2月21日

「上気道感染症の病態と治療 - アレルギー性炎症の関与 -」

黒野祐一

『耳下腺の手術』ビデオ・セミナー 3月2日 (京都)

耳下腺多形腺腫の手術【深葉例】

- 顔面神経の処理 -

黒野祐一

第2回アレルギー、臨床免疫医を目指す人達の為の研修会プログラム

3月8日 (福岡)

臨床の実際：診断と治療

「上気道アレルギー」

黒野祐一

アレルギー談話室 (KBC九州朝日放送) 4月12日 (福岡)

「扁桃とアレルギー」

黒野祐一

第15回 神戸免疫アレルギー談話会 6月12日 (神戸)

「上気道感染症と粘膜免疫」

黒野祐一

大島郡医師会学術講演会 6月20日 (大島)

「上気道におけるアレルギー性炎症」

黒野祐一

アレルギー研修会 2003 6月21日 (横浜)

「鼻アレルギー診察の実際と問題点」

黒野祐一

日本新薬株式会社「社内学術講演会」 7月3日 (京都)

「アレルギー性鼻炎治療における薬剤療法の実際と展望」

黒野祐一

宮崎医科大学講義 7月14日 (宮崎)

「鼻・副鼻腔疾患 (腫瘍以外) ・嗅覚」

黒野祐一

第6回 福岡県ロイコトリエン研究会 8月9日 (福岡)

「鼻アレルギー治療における抗ロイコトリエン薬の位置付け」

黒野祐一

第1回 AR Forum 「小児アレルギー性鼻炎」 8月23日～24日 (東京)

「他の耳鼻咽喉科疾患との関連」

黒野祐一

宮崎耳鼻咽喉科講演会 9月11日 (宮崎)  
「最近の鼻・副鼻腔炎の臨床的取り扱いと下気道疾患」  
松根彰志

第16回 日本口腔・咽頭科学会総会および学術講演会 9月12日～13日 (東京)  
「味覚障害の診療ガイドラインをめぐって」  
－味覚障害に対する診察のすすめかた－  
黒野祐一

枕崎市民健康教室 9月20日  
「睡眠時無呼吸症候群と耳鼻咽喉科」  
松根彰志

大口・伊佐医師会学術講演会 10月21日  
「一般診療におけるアレルギー性鼻炎の考え方」  
黒野祐一

大分大学医学部医学科講義 11月11日  
「特殊感覚器・頭頸部コース：口腔・咽頭・咽頭癌」  
黒野祐一

熊毛地区医師会学術講演会 11月14日 (種子島)  
「上気道感染症の病態と治療」  
黒野祐一

島根大学医学部講義 11月17日  
「感染症と免疫機構」  
黒野祐一

大隅地区薬剤師会学術講演会 11月20日  
「上気道感染症の治療と薬物療法」  
松根彰志

第2回鹿児島耳鼻咽喉科研修会 11月21日

「鼻アレルギー日常診療におけるガイドラインの使い方」

黒野祐一

「塩酸レボカバステン点鼻液のスギ花粉症に対する

初期療法の臨床的検討」について

松根彰志

第5回 福岡マクロライド研究会 12月6日 (福岡)

「上気道炎症に対するマクロライド療法の有用性とその作用機序」

黒野祐一

## (2) シンポジウム

第21回 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 2月13日～15日 (鹿児島)

「NALT形成過程における組織構築の特異性」

福山 聡, 黒野祐一, 清野 宏

「アレルギー性炎症における好酸球浸潤と VCAM-1」

牛飼雅人, 大堀純一郎, 松根彰志, 黒野祐一

第3回 ラウンドテーブル「九州・中国 鼻アレルギー」 3月9日 (博多)

アレルギー性鼻炎の治療ガイドラインについて ②診断

宮之原郁代

第26回 日本医学会総会 2003福岡 4月4日～5日 (福岡)

「アレルギー性鼻炎 -新しい治療法の開発に向けて-」

黒野祐一

第16回 日本口腔・咽頭科学会総会および学術講演会 9月12日～13日 (東京)

「味覚障害の診療ガイドラインをめぐって」

-味覚障害に対する診察のすすめかた-

黒野祐一

## (3) パネルディスカッション

第42回 日本鼻科学会総会・学術講演会 10月10日～10月12日 (東京)

「鼻アレルギーとサイトカイン」

－アレルギー炎症と血管内皮細胞増殖因子 (VEGF)－

松根彰志

第1回アレルギーと感染症を考える会 11月29日 (霧島)

－アレルギー性鼻炎と喘息－

「小児のアレルギー疾患とアレルギー性副鼻腔炎」

松根彰志

## (4) 一 般

第13回 日本頭頸部外科学会総会・学術講演会 1月24日～25日 (仙台)

「多重癌における術式の検討」

相良ゆかり, 松本正隆, 吉福孝介, 福岩達哉, 牛飼雅人, 黒野祐一

「大胸筋皮弁を用いて下顎再建を行った3症例」

林 多聞, 西元謙吾, 福岩達哉, 黒野祐一

「当科における陳旧性眼窩吹き抜け骨折手術症例について」

積山幸祐, 松根彰志, 出口浩二, 黒野祐一

「当科における鼻腔血管線維腫の検討」

谷本洋一郎, 出口浩二, 福岩達哉, 宮之原郁代, 黒野祐一

第15回 気道病態シンポジウム 2月2日 (東京)

「口蓋扁桃単核球における TLR の発現と細菌抗原に対する免疫応答」

田中紀充, 福山 聡, 牛飼雅人, 黒野祐一

第30回 日耳鼻南九州合同地方部会学術講演会 4月19日 (宮崎)

第117回 日耳鼻鹿児島県地方部会学術講演会

「当科における OSAS への対応と問題点」

出口浩二, 原田みずえ, 宮下圭一, 福山 聡, 松根彰志, 黒野祐一

「舌癌T1T2症例に対する予防的頸部郭清術の意義について」

林 多聞, 谷本洋一郎, 相良ゆかり, 福岩達哉, 牛飼雅人, 黒野祐一

「非定型好酸菌頸部リンパ節炎が考えられた幼児1症例」

高木 実, 西元謙吾, 黒野祐一

「当科における好酸球性副鼻腔炎の診断, 治療と経過」

吉福孝介, 積山幸祐, 早水佳子, 宮之原郁代, 松根彰志, 黒野祐一

「副鼻腔炎病態における副鼻腔低酸素とサイトカイン, NFκB」

孫 東, 大堀純一郎, 田中紀充, 牛飼雅人, 松根彰志, 黒野祐一

第15回 日本喉頭科学会総会学術講演会 4月25日～26日 (秋田)

「巨大喉頭蓋嚢胞の2症例」

早水佳子, 相良ゆかり, 宮之原郁代, 牛飼雅人, 黒野祐一

「当科における急性喉頭蓋炎症例の検討」

宮下圭一, 出口浩二, 牛飼雅人, 黒野祐一

第15回 日本アレルギー学会春季臨床大会 5月12日～14日 (横浜)

「好酸球性副鼻腔炎の治療と臨床経過」

吉福孝介, 松根彰志, 積山幸祐, 宮之原郁代, 黒野祐一

「鼻茸由来培養線維芽細胞におけるVCAM-1の発現の検討」

大堀純一郎, 牛飼雅人, 松根彰志, 黒野祐一

「低酸素, TNF- $\alpha$ , LPS刺激による線維芽細胞からVEGF産生」

孫 東, 松根彰志, 大堀純一郎, 牛飼雅人, 黒野祐一

第104回 日本耳鼻咽喉科学会総会, 学術講演会 5月22日～5月24日 (東京)

「側方頭部X線写真を用いた睡眠時無呼吸症候群重症度の予測因子についての検討」

出口浩二, 原田みずえ, 宮下圭一, 松根彰志, 黒野祐一

「当科における喉頭肉芽腫の治療成績と予後因子に関する検討」

福岩達哉, 牛飼雅人, 出口浩二, 宮之原郁代, 相良ゆかり, 黒野祐一

「当科における中咽頭癌再建術後の誤飲に対する対策について」

林 多聞, 福岩達哉, 谷本洋一郎, 黒野祐一

「口蓋扁桃B細胞におけるLPS応答性の検討」

福山 聡, 田中紀充, 宮下圭一, 黒野祐一

- 第23回 気道分泌研究会 5月31日 (箱根)  
「鼻副鼻腔粘膜初代培養細胞におけるムチン遺伝子の発現について」  
出口浩二, 福山 聡, 相良ゆかり, 松根彰志, 黒野祐一
- 第27回 日本頭頸部腫瘍学会 6月25日～6月27日 (金沢)  
－第24回 頭頸部手術手技研究会－  
「喉頭部分切除術の適応に関する考察」  
福岩達哉, 西元謙吾, 大堀純一郎, 牛飼雅人, 出口浩二, 黒野祐一  
「舌癌T<sub>1</sub>T<sub>2</sub>症例のリンパ節転移と予防的頸部郭清術の意義について」  
林 多聞, 福岩達哉, 黒野祐一  
「多発性耳下腺腫瘍症例の検討」  
大堀純一郎, 福岩達哉, 黒野祐一
- 第65回 耳鼻咽喉科臨床学会 7月4日～7月5日 (京都)  
「OSASに対する手術療法の有効性と問題点について」  
出口浩二, 田中紀充, 福岩達哉, 松根彰志, 黒野祐一  
「当科における頬骨・上顎骨骨折治療について」  
積山孝祐, 松根彰志, 林 多聞, 黒野祐一  
「意識障害を来たした巨大真珠腫性中耳炎症例」  
田中紀充, 福岩達哉, 林 多聞, 黒野祐一  
西園浩文 (西園耳鼻咽喉科クリニック)  
「耳下腺腫瘍術前診断における穿刺細胞吸引細胞診の意義」  
原田みずえ, 福岩達哉, 出口浩二, 黒野祐一
- 第10回 マクロライド新作用研究会 7月25日～26日 (東京)  
「低酸素とTNF- $\alpha$ 共刺激による血管内皮細胞増殖因子 (VEGF)  
産生亢進に対するマクロライドの抑制効果に関する検討」  
松根彰志, 孫 東, 大堀純一郎, 牛飼雅人, 黒野祐一
- 第33回 日本耳鼻咽喉科感染症研究会,  
第27回 日本医用エアロゾル研究会 9月5日～9月6日 (仙台)  
「上咽頭細菌叢とIL-8及び滲出性中耳炎の関連について」  
林 多聞, 牛飼雅人, 高木 実, 黒野祐一  
「腫瘍扁摘が奏効した扁桃周囲膿瘍・咽後膿瘍の1症例」

田中紀充, 福岩達哉, 大堀純一郎, 黒野祐一

第16回 日本口腔・咽頭科学会総会および学術講演会 9月12日～13日 (東京)

「小児 SAS への対応と問題点」

出口浩二, 田中紀充, 松根彰志, 黒野祐一

「下極型扁桃周囲膿瘍における即時膿瘍扁摘の有用性について」

田中紀充, 早水佳子, 出口浩二, 黒野祐一

第25回 鹿児島感染症研究会 9月11日 (鹿児島)

「当科における扁桃周囲膿瘍例の検討」

早水佳子, 宮之原郁代, 福山 聡, 出口浩二, 黒野祐一

第42回 日本鼻科学会総会・学術講演会 10月10日～10月12日 (東京)

「副鼻腔粘膜初代培養細胞におけるムチン発現とカルボシステイン」

出口浩二, 相良ゆかり, 松根彰志, 黒野祐一

「上顎洞真菌症における術前アレルギー検査及び病理所見」

相良ゆかり, 松根彰志, 早水佳子, 高木 実

吉福孝介, 積山幸祐, 黒野祐一

「副鼻腔粘膜への好酸球浸潤における喘息の関与」

吉福孝介, 松根彰志, 大堀純一郎, 早水佳子, 相良ゆかり, 黒野祐一

第13回 日本耳科学会学術講演会 10月16日～18日 (東京)

「当科における過去16年間の急性乳様突起炎の臨床的検討」

宮之原郁代, 田中紀充, 福岩達哉, 出口浩二, 黒野祐一

「当科における5年間の小児真珠腫症例の検討」

出口浩二, 福岩達哉, 田中紀充, 積山幸祐, 松根彰志, 黒野祐一

「滲出性中耳炎における VEGF の役割」

積山幸祐, 松根彰志, 孫 東, 牛飼雅人, 黒野祐一

「耳内法手術における一工夫」

上村隆雄, 出口浩二, 黒野祐一, 稲福 繁

第53回 日本アレルギー学会総会 10月23日～25日 (岐阜)

「アレルギー性鼻炎と血管内皮細胞増殖因子 (VEGF)」

松根彰志, 孫 東, 吉福孝介, 牛飼雅人, 黒野祐一

「アレルギーを背景とした滲出性中耳炎と血管内皮細胞増殖因子（VEGF）」

積山幸祐, 松根彰志, 孫 東, 牛飼雅人, 黒野祐一

第36回 甲状腺外科研究会 10月30日～31日 (京都)

「当科における甲状腺癌気管浸潤症例に対する気管再建」

林 多間, 福岩達哉, 西元謙吾, 黒野祐一

第55回 日本気管食道科学会総会 10月30日～31日 (福岡)

「甲状腺悪性腫瘍の術式に関する検討」

福岩達哉, 西元謙吾, 牛飼雅人, 黒野祐一

「当科における喉頭乳頭腫症例の検討」

原田みずえ, 牛飼雅人, 福岩達哉, 黒野祐一

第49回 日本小児耳鼻咽喉科研究会 12月6日 (東京)

「当科における小児先天性真珠腫手術症例の検討」

出口浩二, 吉福孝介, 相良ゆかり, 黒野祐一

「小児先天性頸部嚢胞10症例の検討」

吉福孝介, 出口浩二, 黒野祐一

## 5. 国際学会発表

8<sup>th</sup> Asian Research Symposium in Rhinology

March 15-16, 2003 (Tainan, Taiwan)

「The Mechanism in the Expression of Inflammatory Cytokines and Its Role in the Nasopharynx」

Y.Kurono, M.Ushikai, M.Takaki, and T.Hayashi

「Expression of Vascular Cell Adhesion Molecule-1 on Human Nasal Fibroblasts」

J.Ohori, M.D., M.Ushikai, M.D., Y.Kurono, M.D.

「Influence of Atopic Diseases on Chronic Sinusitis in Children」

Y.Tanimoto, S.Matsune, I.Miyanohara

5<sup>th</sup> International Symposium on Tonsil and Mucosal Barriers of the Upper Airways

April 9-11, 2003 (Wakayama)

〔THE ROLE OF PALATINE TONSILS IN THE PATHOGENESIS OF PUSTULOSIS PALMARIS ET PLANTARIS〕

T.Iwatsubo, N.Tanaka, T.Hayashi, Y.Kurono

〔IMMUNE RESPONSES OF PALATINE TONSIL AGAINST BACTERIAL ANTIGENS〕

N.Tanaka, S.Fukuyama, M.Ushikai, K.Miyashita, Y.Kurono

〔CLINICAL ASPECTS OF INFERIOR POLE PERITONSILLAR ABSCESS〕

Y.Hayamizu, I.Miyanohara, S.Fukuyama, K.Deguchi, Y.Kurono

〔NALT-GENESIS IS INDUCED BY CD3<sup>-</sup>CD4<sup>+</sup>CD45<sup>+</sup> CELLS〕

S.Fukuyama, T.Hiroi, H.Kiyono, Y.Kurono

〔Dynamism of the mucosal immune system: from tissue organogenesis to immunity〕

S.Fukuyama, M.-N.Kweon, M.Yamamoto and H.Kiyono

8<sup>th</sup> International Symposium on Recent Advances In Otitis Media

June 3-7, 2003 (Florida, USA)

〔The mechanism and role of adenoids in producing inflammatory cytokines〕

Y.Kurono, M. Ushikai, M.Takaki, S.Matsune

〔The Effect of Adenoidectomy on Otitis Media with Effusion in Children〕

Y.Sagara, K.Deguchi, M.Ushikai, Y.Kurono

〔Induction of Antigen Specific Mucosal and Systemic Immune Responses after Nasal Immunization with Phosphorylcholine〕

S.Fukuyama, N.Tanaka, Y.Hayamizu, Y.Kurono

10<sup>th</sup> Congress of IRS 22<sup>nd</sup> ISIAN 26<sup>th</sup> Congress of KRS

October 23-26, 2003 (Seoul, Korea)

Symposium

〔Expression of VCAM-1 in nasal mucosa and the role in eosinophilic accumulation〕

Y.Kurono

Luncheon Seminars

〔The role of Clarithromycin in the expression of inflammatory cytokines〕

Y.Kurono

〔Intranasal immunization with phosphorylcholine induced antigen specific mucosal and systemic Immune responses in mice〕

**N.Tanaka, S.Fukuyama, Y.Hayamizu, Y.Sagara, T.Fukuiwa, Y.Kurono**

〔Synergic effect of Hypoxia and TNF- $\alpha$  / Endotoxin on producing VEGF from cultured human fibroblast from nasal polyp〕

**Dong Sun, S. Matsune, J. Ohori, H. Ohshiro, M. Ushikai, Y. Kurono**

The 7<sup>th</sup> JAPAN-TAIWAN CONFERENCE in Otolaryngology, Head And Neck Surgery  
October 29-31, 2003. (Tokyo)

〔The Role of Vascular Endothelial Growth Factor in Nasal Allergy〕

**S.Matsune, Sun Dong, M.Kawabata, K.Yoshifuku, M.Ushikai, Y.Kurono**

〔Application of conventional cephalometry for the diagnosis of obstructive sleep apnea syndrome〕

**K.Deguchi, T. Hayashi, M.Harada, S.Matsune, Y.Kurono**

## 6. 学位論文要旨

医研第556号

The Role of Nuclear Factor- $\kappa$ B in Interleukin-8 Expression by Human Adenoidal Fibroblasts

ヒトアデノイド線維芽細胞の IL-8 発現における NF- $\kappa$ B の役割

高 木 実

目的：鼻咽腔の炎症や滲出性中耳炎の発症にアデノイドで産生される炎症性サイトカインが関係している事が知られている。しかしながら、アデノイドにおける IL-8 などの炎症性サイトカインの産生機序については未だ明らかにされていない。そこでヒトアデノイド線維芽細胞における IL-8 発現について転写因子レベルで検討を行った。さらに、14員環マクロライドであるクラリスロマイシンのヒトアデノイド線維芽細胞における IL-8 発現および NF- $\kappa$ B 活性化に対する作用について検討した。

方法：ヒトアデノイド線維芽細胞にヒト鼻咽腔から分離された nontypeable *Haemophilus influenzae* より抽出したのエンドトキシンあるいはヒトリコンビナント IL-1 $\beta$  を加えて培養した後、IL-8 の発現を ELISA 法、Northern blot 法、RT-PCR 法を用いて測定した。また、エンドトキシンや IL-1 $\beta$  刺激による IL-8 発現に対する NF- $\kappa$ B 阻害剤やクラリスロマイシンの作用を同様の方法にて検討した。また、同時に NF- $\kappa$ B の活性化あるいはその抑制効果について Electrophoretic mobility shift assay 法を用いて検討した。

結果：ヒトアデノイド線維芽細胞での IL-8 発現は蛋白レベル、mRNA レベル双方においてエンドトキシンや IL-1 $\beta$  刺激によって増加した。この IL-8 産生および mRNA 発現の亢進は NF- $\kappa$ B の活性化と正の相関があった。またヒトアデノイド線維芽細胞を NF- $\kappa$ B 阻害剤である TPCK やクラリスロマイシンにて前処置すると、濃度依存的に IL-8 産生および NF- $\kappa$ B 活性化が抑制された。

結論：ヒトアデノイド線維芽細胞における IL-8 の産生には NF- $\kappa$ B の活性化が重要であると考えられた。また、クラリスロマイシンがアデノイド線維芽細胞での NF- $\kappa$ B 活性化および IL-8 産生に対して抑制効果を持つことは、同薬の滲出性中耳炎に対する有効性の機序の一部を説明するものと思われた。

(Laryngoscope 113巻 8号 2003年掲載)

## 1. 新入医局員紹介

上 村 隆 雄



自己紹介：地元川内の生まれで、約20年ぶりに鹿児島に帰ってきました。黒野教授にご配慮いただき、このたび仲間に入れていただくことになりました。愛知医大では、聴覚・耳科学を中心に勉強して参りました。これまでの経験が少しでも鹿児島でいかせればと思っております。まだまだ勉強の途中ですが、よろしく願いいたします。

川 島 雅 樹



自己紹介：平成15年の新入局者は私1人でしたが、多数の先生方の御協力もあり、毎日充実した研修をさせていただいております。入局前より抱いていた期待通り、耳鼻咽喉科は非常に幅広く、奥の深い科であり学ぶことの多さとともにやりがいのある科であることを日々実感しております。まだ、医療に従事してわずか1年の研修医という立場ではありますが、研修医としてできることは何かということを経験の原点に立ち返って考えながら常に行動していきたいと考えております。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 2. 医局人事（平成16年7月現在）

教授	黒野祐一
助教授	松根彰志
講師	牛飼雅人
助手	西元謙吾，相良ゆかり，林 多聞，吉福孝介 (研究休職：福岩達哉 アメリカ合衆国)
医員	積山幸祐，大堀純一郎，唐木敦子，下麥哲也，早水佳子
大学院生	早水佳子，孫 東，原田みずえ，宮下圭一
研修登録医	宮之原郁代，福山 聡，高木 実
医局長	西元謙吾
外来医長	牛飼雅人 (副) 相良ゆかり
病棟医長	林 多聞

## 関連病院（平成16年7月現在）

国立病院九州循環器病センター	松崎 勉
国立療養所星塚敬愛園	宮之原郁代 (研修登録医)
県立大島病院	出口浩二，谷本洋一郎 (研究生)
鹿屋医療センター	平瀬博之，川畠雅樹
県立北薩病院	大城 浩
出水市立病院	関 大八郎
済生会川内病院	上村隆雄
鹿児島生協病院	江川雅彦
藤元早鈴病院	森園健介
あまたつクリニック	河野もと子
今村病院分院	高木 実 (研修登録医)
鹿児島市立病院	田中紀充

### 3. 学会報告

## 第15回日本喉頭科学会総会・学術講演会

宮 下 圭 一

今回は研修1年目にして初めての学会発表であり、また東北日本海側の秋田県で開催されることもあって、行く前から秋田小町やキリタンポで頭がいっぱいでした。早速秋田に到着すると、学会会場近くの秋田の千秋公園では桜が満開で、炉辺ではおばちゃんがババベラアイスなるものを売っており、3人で食べながら城下町の桜を満喫しました。肝心の学会では、早水先生は巨大喉頭蓋のう胞の症例についてポスター演題で、自分は急性喉頭蓋炎の外科的治療についての発表を早々に済ませ、黒野先生と3人で夜の秋田に繰り出しました。たまたま入った店で徳島大学の武田先生に偶然いっしょになり、日本酒を飲みながらハタハタや海の幸に舌鼓をうち、グルメな夜となりました。そうそう、忘れていましたが、秋田美人は学会会場のレセプションのときに、秋田小町扮するコンパニオンとして登場しました。黒野先生が「秋田小町はいつの時代から？」とか、「田植えのときだけそんな格好するの？」とかいろいろ質問攻めにしましたが、相手はなんちゃって秋田小町コンパニオンだったため、全く答えられませんでした。コンパニオンが去った後に黒野先生から一言、「コンパニオンもプロならそれくらい答えられないとね」。・・・なるほどです。

## 第15回日本アレルギー学会春季臨床大会

吉 福 孝 介

2003年5月12日～14日に、第15回日本アレルギー学会春季臨床大会が、横浜で開催され、大学からは、黒野教授、松根助教授、大堀先生、孫先生、私の5人が参加した。

自分の演題は、2日目の午前中にありました。非常に珍しく同じセッションに大堀先生、孫先生の演題もあり、大学の予演会の様でありました。私の発表に対する質問の回答を、松根先生が口パクで教えて下さり非常に助かったのが印象的でした。横浜は、中華街が有名ですが、中華を食べずに大堀先生とファーストフードで食事したのを覚えております。

大きい学会場でしたので内容は盛だくさんでありました。今度横浜に行ったら中華を食べたいと思います。

## 第104回日本耳鼻咽喉科学会・学術講演会

福 山 聡

東京大学耳鼻咽喉科学教授、加我君孝先生が担当された第104回日本耳鼻咽喉科学会・学術講演会は、2003年5月22～24日の会期で、東京都の日本都市センター、砂防会館別館及び東京大学キャンパス・安田講堂で開催されました。鹿児島大学耳鼻咽喉科学教室からは黒野教授をはじめ福岩先生、出口先生、林先生、松根先生そして福山が参加しました。また鹿児島市立病院から花牟礼先生が演者として参加されました。

本学会での注目すべき点としてインターネットによる手術のライブ中継が行なわれました。学会だけでなく臨床現場でもライブ中継が利用される日も近いのではないのでしょうか？

最終日には安田講堂では和歌山県立医科大学・山中昇教授による宿題報告『変貌する急性感染症と新治療戦略』が行なわれました。中でも母胎免疫によるインフルエンザ菌特異的免疫応答の誘導やDNA ワクチンについての講演は経鼻ワクチンの開発に向けてのすばらしい提言であると思いました。

本学会では東京大学ならではの催しが数多く行なわれました。例えば医学部の解剖学標本室が特別に公開されました。夏目漱石、横山大観の脳の標本や山極勝三郎による世界初のコールタールで誘導したウサギの耳の人工皮膚癌を見る事も出来ました。江戸開府400年を迎えた記念すべき年に東京大学の歴史とスケールの大きさに改めて感服させられました。

## 第23回気道分泌研究会（2003. 5. 31）に参加して

出 口 浩 二

もともと本研究会は風光明媚な場所で開かれることが一つのポリシーであった、と記憶している。今回の会場は箱根であった。関東にほとんど縁のない私にとって、箱根という地名はあまりにもポピュラー（箱根駅伝というイベントは頭に思い浮かべることはできて）でありながら、どのような位置にあるか実感ができなかった。すなわち私にとっては全くの処女地であった。

今回の旅程は前日より東京都内泊で、発表第二番目という自分の順番に備えた。翌朝、東海道新幹線に乗り小田原駅まで移動。そこから会場である箱根プリンスホテルに移動した。

この日は梅雨にも入ってない晩春の時期だったが天気が悪く、局地的な豪雨で新幹線から小田原駅の改札に降りた際、フロアーの一部が冠水していた。ちなみに夜の全国ニュースで、この光景は報道されていた。駅からホテルまではタクシーの移動であったが、運転手の話では例年駅伝の時期はホテルが予約で一杯になるとのことで、常連さんも多いそうである。あと今回の箱根プリンスホテルは長嶋一茂が結婚式を挙げたというところで有名らしい。

研究会自体、基礎的分野が中心で中身の濃い、レベルの高いものであった。その中で第二番目に発表するという事は早く自分の発表が終われるということでは良かったが、これまでに様々な学会で発表する機会をあたえてもらい発表については経験をつんできているつもりの自分も緊張してしまった。

今回、箱根の風光明媚さは天候のため味わうことはできなかったが、研究会の中に流れている厳しさは十分感じ取ることができた。次回は開催地、小樽ということで非常に魅力を感じるが、会の内容に見合う演題が必要だと感じつつ帰路についた。

## 第27回日本頭頸部腫瘍学会・第24回頭頸部手術手技研究会

大 堀 純一郎

第27回日本頭頸部腫瘍学会は、平成15年6月25、26、27日の日程で金沢で開催された。当科からは、黒野先生、福岩先生、林先生、早水先生、私の5人で参加した。学会では、ビデオ公演とポスターが多く、特に鼻の内視鏡手術、甲状腺腫瘍の内視鏡手術などは非常に勉強になった。学会での夜のすごし方は人それぞれであると思うが、今学会では、ちょうど金沢アンサンブルの公演があり、日本人で、ベルリンフィルハーモニーオーケストラの首席コンサートマスターを務めている安永徹氏が、コンサートマスター、バイオリンソロとして参加していた。たまたま見つけた演奏会で名演に出会えてとても有意義な夜であった。

## 第65回耳鼻咽喉科臨床大会

原 田 みずえ

H15年7月4、5日に京都で開かれた第65回耳鼻咽喉科臨床大会に、出口先生、積山先生、田中先生と私の4人で参加させていただいた。出口先生は睡眠時無呼吸について、積山先生は上顎骨頬骨骨折の検討について、田中先生は巨大真珠腫症例の発表をされた。

私は耳下腺のFNAの検討について発表したが、これまで大きな学会で発表したことがなく、しかも、ポスターセッションだったため、準備に大変時間がかかり大変苦労した。予演会するとき、なぜか非常に緊張し、あまりに情けない発表だったので、本番うまくいか非常に心配したが、出口先生のフォローのおかげでうまくいき、大変助かった。この学会はほとんどが、ポスターセッションだったが、いかに参加者の興味を引くか、視覚と聴覚に訴えることが大事だと思った。その夜みんなで鴨川沿いのBARでそよ風に吹かれながら飲んだカクテルは最高だった。

## 第33回日本耳鼻咽喉科感染症研究会

林 多 聞

平成15年9月5日に仙台において行われました第33回日本耳鼻咽喉科感染症研究会には当科より私と田中先生が演題発表にて参加しました。特別講演の平松啓一先生は耐性菌時代の化学療法について、教育講演の鈴木英太郎先生は目で見るウイルス感染症の分析、ランチョンセミナーの岩崎恵美子先生は国際社会と感染症についてそれぞれご講演され実地臨床に役立つ知識を得ることができました。さらに、最も耳目を引いたのはシンポジウムの性感染症と耳鼻咽喉科で、なかでも有名な赤枝六本木診療所院長の赤枝恒雄先生の講演はユーモアを取り混ぜた微妙の語り口でした。性感染症の増加する都心にある診療所の現状と、先生の草の根運動的な努力は驚かされるばかりでした。耳鼻咽喉科領域における性感染症の症状所見についても詳細に提示され貴重な知識を得ることができ、参加者は一様に興味をそそられたものと思われま。常日頃の学会とは一味違うと感じさせられ、非常に貴重な機会を得ました。ついでに仙台の牛タンも絶品でありました。

## 第16回日本口腔・咽頭科学会総会

田 中 紀 充

平成15年9月12・13日に、東京（シェーンバッハ砂防）において開催された。

当教室より、黒野教授、出口先生、田中が参加した。近年、各領域、各疾患のガイドライン作成が盛んに検討されているが、『味覚障害の診療ガイドラインをめぐって』と題したシンポジウムにおいて、黒野教授が、西元先生をはじめとした当教室の取り組みも踏まえてシンポジストをつとめられた。今回の学会は、睡眠時無呼吸が指定演題で、

『小児 SAS への対応と問題点』の演題で出口先生が口演された。マスコミでも大きく取り上げられている疾患だけに、専門医として現在のコンセンサスを踏まえ、臨床の現場で問題点を洗い出し、積極的に取り組む必要性を感じた。私は、『下極型扁桃周囲膿瘍における即時膿瘍扁桃摘の有用性について』発表させていただいた。

指定演題の関係もあるのだろうが、扁桃病巣感染等の演題は影を潜め、OSAHS 関連、味覚をはじめとした感覚機能についての演題がおおかった。学会に参加することによって、今、何が問題視され、興味をもたれているかを認識することができ、大変勉強になった。

## 第42回日本鼻科学会総会・学術講演会

相 良 ゆかり

平成15年10月10～11日、都市センターホテルにて第42回日本鼻科学会総会・学術講演会が行われた。そちらの方に鹿児島大学から、黒野教授、松根助教授をはじめ出口、吉福、相良の3人が参加させていただくこととなった。

今回の鼻科学会臨床問題懇話会では、「鼻腔通気性の評価：現況と将来」として、鼻腔通気測定法ガイドラインや、睡眠呼吸障害との関連について、また音響鼻腔計測法の有用性についての講演があり、新しく鼻腔通気検査を見直す良い機会となった。

シンポジウムでは「上気道におけるEBウイルス感染と発癌」、サテライトシンポジウムでは「鼻副鼻腔領域の好酸球性炎症について」、パネルディスカッションで、「鼻アレルギーとサイトカイン」など、まさに現在のトピックスについて講演と、活発なディスカッションが行われていた。また、どの演題でも質問が多く、熱心にディスカッションが行われる学会である印象が残った。

さて今回、私たち3人は、午前中の便で11時過ぎに羽田に着き、お腹がペコペコの状態で学会会場へ向かうこととなった。しかしこのままの状態では興味のある演題も、なかなか耳に入らないだろう、ということで途中お手頃な中華料理店を見つけ、食事をする事となった。お店の名前は忘れてしまったが、私たちの極度のお腹の空き具合に比べ、非常に親切な料金でそちらの方でも印象の良い学会となったことであった。

## 第13回日本耳科学会学術講演会

上 村 隆 雄

平成15年10月16日から18日の3日間、千葉の幕張メッセ国際会議場において、日本医科大学の担当で第13回日本耳科学会学術講演会および総会が開催されました。医局からは黒野教授、宮之原先生、出口先生、積山先生、私の5名で参加しました。昨年からはパワーポイントでのコンピュータ・プレゼンテーション発表が可能となり、スライド作成の手間が省け、またひと昔前に比べきれいな画像や映像が増えてきたように感じました。本学会の教育講演とパネルディスカッションは、耳科学を志すものにとって、毎回大変勉強させられる内容です。今回は教育講演として「私の手術 - 真珠腫性中耳炎への対応 -」、演者には中野・本多・鈴木・柳原と草々たるメンバーで、日本の中耳手術の一時代を担ってこられた先生方の貴重な話を聞くことができとても有意義でした。また、パネルディスカッションは「好酸球性中耳炎の基礎と臨床」、「耳科手術専門教育はいかにあるべきか - Teaching and Learning -」が行われ、いずれも最新の内容で勉強になりました。特に「好酸球性中耳炎」については、小生は黒野教授から宿題を頂いており、いつもより熱心にメモをとっておりました（結果はENTONI 34号をご覧ください）。学会のもう一つの楽しみであるアフター5は今回学会が幕張ということで期待しなかったのですが、初日は黒野教授を囲んでじっくりと様々な話が聞け、2日目は、旧友と飲み明かすというこれまた思わぬ収穫ができ、大変実りのある学会となりました。

## 第53回日本アレルギー学会総会

積 山 幸 祐

第53回日本アレルギー学会総会は2003年10月23日（木）、24日（金）、25日（土）に、岐阜市長良川国際会議場と岐阜ルネッサンスホテルにて開催されました。

当教室からは、松根先生と私で参加させていただき、松根先生が「アレルギー性鼻炎と血管内皮細胞増殖因子（VEGF）」私が「アレルギーを背景とした滲出性中耳炎と血管内皮細胞増殖因子（VEGF）」という演題名で発表いたしました。

同学会へは昨年に引き続き2年連続の参加となりましたが、昨年の印象と同じで非常に学術的な学会という印象を受けました。

岐阜は、長良川の鶺鴒いなどで有名な風光明媚な中堅地方都市ではありますが、名古屋

が近く夜は、名古屋で松根先生にご馳走になりました。なぜか白子が非常においしかったです。

ありがとうございました。

## 第36回甲状腺外科学会

林 多 聞

平成15年10月30日と31日の二日間にわたって甲状腺外科学会が開催されました。

今までは当科からの参加はほとんどなく、今回も私のみの参加となりました。当番世話人は国立京都病院耳鼻咽喉科の永原先生でありました。気管食道科学会の開催と重なったため、耳鼻咽喉科からの参加も非常に少なかったようです。甲状腺を専門とする外科医の先生方が中心であり、その中で私は当科における甲状腺癌気管浸潤例に対する再建術についての発表でしたが、非常に緊張せざるを得ませんでした。しかしながら、他の先生方の発表は一般外科医の立場からの発表であり、参考にさせていただける部分も多々ありました。

シンポジウムは、外科侵襲は甲状腺、副甲状腺にどう影響するか、ランチョンセミナーは上皮小体腫大の機序というテーマであり、普段われわれが意識しない臨床の知識を得る機会であったと思います。今後このような他科も多く参加する学会で勉強することも必要であると考えさせられました。

## 第55回日本気管食道科学会

原 田 みずえ

H15年10月30、31日に福岡で開かれた第55回日本気管食道科学会に、福岩先生と私の2人で参加させていただいた。福岩先生は甲状腺悪性腫瘍に対する術式の検討について、私は喉頭乳頭腫の検討について発表した。福岩先生はさすが、原稿も持たれず堂々と発表されていたが、私はというと原稿を読んだにもかかわらず、何度もかんでしまい、最後は早く壇場から逃げたい気持ちだったのに、座長の先生から鋭い突込みの質問がきて、うまく答えられず悔しいやら、悲しいやらで、何とも言えない苦い思い出になった。その後は、福岩先生のご知り合いの先生を交え、3人で飲みながら語り合ったが、その先生の熱のこもった語りぶりにしごく感銘を受け、おかげでブルーな気分も吹っ飛び、これからもがんばろうという気分になった。

## 第49回日本小児耳鼻咽喉科研究会

吉 福 孝 介

2003年12月6日、東京にて開催された第49回日本小児耳鼻咽喉科研究会に、黒野教授、出口先生、私の3人が参加した。私の発表は、第1群の1番目であったため非常に緊張した。小児正中頸嚢胞15症例の検討について発表させて頂いた。学会自体は、小児特有の疾患についてであり、とても勉強になった。他大学の様々な症例、研究に触れることができて充実した一日でありました。

## 第14回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会

大 堀 純一郎

第14回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会は、平成16年1月22、23日に東京のホテル日航にて開催された。当科からは、黒野教授、福岩先生、林先生、私の4人で参加した。

今回の頭頸部外科学会総会では、下咽頭癌の喉頭温存、耳手術、小児の扁桃摘出術についての講演がとても印象に残った。耳の手術の基本手技、ピットフォール等、教科書に載らないようなポイントが、経験豊かな先生の口から語られるのを、聞き逃さないように必死であった。小児の扁桃摘出術では、バイポーラを用いた扁桃摘出術のビデオを見せていただき、両側の扁桃摘出に3分程度という驚きの手術を見せていただいた。学会場のすぐ近くには、大江戸温泉がオープンしたばかりであったが、温泉の豊かな鹿児島からやってきてわざわざ塩素くさい温泉に入らなくてもいいだろうと、あまり興味はわかかなかった。

## 第16回気道病態シンポジウム

田 中 紀 充

平成16年1月31日に、東京（飯田橋、ホテルエドモント）にて開催された。昨年が続いての参加ではあったが、やはり口演10分、討論10分はストレスである。昨年、質問にうまく答えられず、悔しい思いをしたのをホテルに着くと思い出した。今回は、『マウスにおける Phosphorylcholine (PC) に対する免疫応答』の演題で発表した。この内容

は、既に福山先生がフロリダで、私がソウルで発表したものに一部データを加えたもので、国内では初めての発表であった。質問の内容も予想内の範囲で今回はなかなか充実感があった。そのためか、昼食の中華は美味しかった。

## 第16回日本喉頭科学会総会学術集会

川 畠 雅 樹

本学会は平成16年3月19日、20日に愛媛県松山市で開催され、当医局からは黒野教授、福岩先生、私の3人が参加しました。シンポジウムでは近年増加傾向にある痙攣性発声障害のほか、難治性喉頭疾患に対する治療戦略と題して喉頭狭窄、喉頭肉芽腫、喉頭乳頭腫、喉頭血管腫等の治療について様々な議論が展開され、非常に興味深い内容ばかりでした。私自身は今学会が初めての発表でしたが多数の先生方のご指導もあり、「披裂軟骨脱臼の2症例」という演題で無事発表させていただきました。今回の発表で学んだことを次回以降の発表へと活かしていきたいと思います。松山市は瀬戸内海に面した温暖な土地であり、桜の開花とも重なり、学会の合間の松山城下15万石の散策はすばらしいものでした。

## 第22回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会

積 山 幸 祐

2004年3月25（木）～27（土）にホテルロイトン札幌で開催された第22回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会に黒野教授、松根助教授、福岩先生、田中先生と私で参加させていただきました。

3月下旬とはいえ、北海道はまだ雪が積もっており時々雪も降る寒さでしたが、熱気あふれる議論と夜のさっぽろビール、十勝ワイン、函館ワイン、札幌ラーメン等で温まりました。

最終日には小樽まで足をはこび三角市場で新鮮な海の幸をお土産として買い込み地ビールで気持ちよくなりながら北海道をあとにしたのでした。

## The 5<sup>th</sup> International Symposium on Tonsils and Mucosal Barriers of Upper Airways

福 山 聡

第5回国際扁桃・粘膜免疫シンポジウムは2003年4月9日から11日にかけて和歌山県の和歌山マリーナシティ ロイヤルパインズホテルで開催されました。当教室からは黒野教授をはじめ岩坪先生、田中先生、早水先生と私が参加しました。本学会は扁桃を中心とした上気道の免疫メカニズム、病態解明を目的とし1987年に第1回学会が京都でおこなわれ、その後4年毎に開催されております。扁桃は炎症の場として内科的、外科的治療の対象となる一方で、粘膜免疫誘導組織として重要な役割が期待されている。例えば扁桃をターゲットした経鼻ワクチンは次世代型ワクチンとして精力的な研究が進められています。

当教室は様々な角度から扁桃の研究をおこなっており、その研究成果の一部を本学会で発表しました。岩坪先生は口蓋扁桃の抗ケラチン抗体産生細胞を測定し掌蹠膿胞症における扁桃の役割について検討したデータを発表しました。田中先生は扁桃の細菌抗原に対する低反応性を明らかにしました。早水先生は下極型扁桃周囲膿瘍を臨床的に検討しました。また、私はマウスのNALTの発生について発表しました。いずれの発表も盛んな discussion がおこなわれました。

学会では盛大なレセプションパーティーが用意されており、外国の参加者だけでなく私達も日本の伝統芸能を楽しむ事ができました。またマグロの解体ショーもあり、和歌山の黒潮文化を垣間見る事が出来たと思います。

今学会で得られた知識を基にさらに扁桃を中心とした上気道免疫機構の解明を行なっていこうと思います。扁桃はヒトから採取できる最も大きなそして容易に利用できるリンパ組織です。私達、耳鼻咽喉科医はこの advantage を活かしてより多くの新しい情報を免疫学分野に発信できるのではないかと期待は大きく膨らみます。

## The 8<sup>th</sup> International Symposium on Recent Advance in Otitis Media In Florida, USA, June 3-7, 2003

相 良 ゆかり

2003年6月3日～7日まで、FloridaのFort Lauderdaleで行われました4年に1回開催されるという、この大きな学会の第8回目にあたる会に参加させていただきました。

当科からは、黒野教授をはじめ、福山先生、そして相良が参加いたしました。

この学会に演題を出すように指名されたときには、自分がまさか、そのような大きな国際学会で、しかもSpeechで発表するなんてことは全く考えられないことでしたので、気が遠くなるような思いでした。

行きはJFK空港経由で、会場及び宿泊施設である、Marriott Harbor Beach Resort and Spaに到着しました。Resort and Spaというだけあって、目の前はプライベートビーチ、大西洋が広がるすばらしいホテルでした。到着日から旅行気分で、黒野教授お勧めのChary clubというお店へ行き、早速シーフードを堪能し、その美味しさに感激したことでした。

翌日からの学会では、各セクションともに活発な討論が繰り返され、自分の発表など、気が付いた時には終わっているような状態でした。また会場ではDr. Lim, Dr. Bluestoneにお会いでき、間近で見ることができて感激もひとしおでした。

今回の学会で最も印象深かったのは、バンケットの国別対抗の催しで、旭川医科大学の先生方を中心とし全員で参加した「KARATE MAN」で、Japanが見事優勝したことでした。各国の先生方は皆さん芸達者で、勉強ばかりでなく多趣味なことにも驚きました。その中でもJAPANは群を抜いていたらしく(!)見事、第1位の座に輝きました。優勝商品で頂いたドンペリの味が格別(!!)であったことは書くにおよびません。

また、今回は「老人と海」で有名なヘミングウェイの生家がある町、キーウェストにも足を運ぶなど、黒野教授のご指導のもと、学会(その他)でも非常に貴重な体験をすることができました。



22<sup>nd</sup> ISIAN October 23-26, 2003, Seoul, Korea

田中紀充

私は、今回が国際学会3回目でした。最初の香港は右も左もわからないままに学会が過ぎ、大堀君と朝市で食べた朝粥の味が思い出に残っています。2回目は和歌山で、ラーメンと温泉でしょうか。3回目にして、国際学会がいかなるものか少しは理解でき、学会そのものを enjoy できた感がありました。

今回の旅の始まりは、とんだハプニングからでした。福岡空港で孫先生の日本に帰る際のビザがなく、福岡空港内をダッシュしました。即座に発行してもらい事なきを得ましたが、皆さん、外国留学先から外国へ行くときは注意しましょう。

ソウルヒルトンで開催され、黒野教授はランチョンセミナー、シンポジウムと学会期間中も多忙なスケジュールでした。孫先生と私が Free paper にエントリーしましたが、今回の学会のハイライトは、何と言っても孫先生が Best of Free Paper を受賞したことです。パーティーで表彰され、皆から握手攻めにあい、孫先生の緊張した様子は今でも浮かんできます。今回は同行されませんでした。もし松根先生が隣にいたら更に大騒ぎだったと思います。孫先生は、おそらく何も食べられなかったのでしょうか、教授と別れた後、二人でソウルの街に繰り出しました。孫先生が食べる食べる、飲む飲む。孫先生にとっても私にとってもすばらしい思い出になりました。



ISIAN in Seoul



## The 7<sup>th</sup> JAPAN – TAIWAN CONFERENCE IN OTOLARYNGOLOGY, HEAD AND NECK SURGERY (2003.10.29–31) に参加して

出口 浩 二

二年に一度開催される本学会に参加するのは初めてのことであったが、今回は残念ながら会場は日本、東京であった。にもかかわらず、国際学会ということで当然、発表、質疑応答は英語であった。このため毎回緊張し、質問が来た際にスムーズに返答ができない自分を反省して、いくつかのパターンを用意して発表には臨んだ。ところが座長の配慮でディスカッションは群の発表がすべて終了したあとまとめてということで、発表直後の質問というものはない。自分の所属している群の発表内容がテーマとしてあまりまとまった群でなかったこともあり、その群が終了するにいたっても質問が出ることはなく終わってしまった。昨年ドイツの ISIAN でも発表の機会を与えてもらい、この時も質問がないまま終わり帰ってきた記憶があるが、国際学会で恥をかくという経験は二回連続しそびれた感があり、なんとなく物足りない気分で会場を後にした。

学会の雰囲気は at home な中にも厳しさがああり、内容にも台湾、日本の両国の特徴が出ているフレンドリーな学会であった。

## The 9<sup>th</sup> Joint Meeting of Five Departments of Otolaryngology 2004.4.3～5

早 水 佳 子

今回、第9回目を数えるこの会は、ちょうど桜が満開の我が鹿児島 の地にて行われました。韓国 (Ajou, Yonsei)、台湾 (National Taiwan)、日本からは、金沢医科、関西医科、大分、島根、そして鹿児島 の参加となりました。

4月3日、各地からお集まり頂いた先生方は、疲れもなんのその、ウェルカムパーティに参加し、祝杯にて交流を深めました。

4月4日、朝早くから、大勢の参加者の中で盛大に演題発表が始まりました。私も、稚拙ながら、演題発表をさせて頂き、更に有り難い事に?! 沢山の質疑を受けました。黙っているのは、一番良くないと思い、文法もへったくれもない、へなちょこボール球で応答をヒョロヒョローと投げ返してみたのでした。皆さん、異国語であるにもかかわらず、活発な討論は最初から最後まで続き、結局、発表の終了時刻は、座長の努力も空しく、予定の1時間遅れとなりました。

しかし、そこは、多忙な臨床を経験しておられる皆さんであり、昼食時間の短縮と機敏な行動にて、午後から予定していた鹿児島バス観光は滞りなく、進みました。焼酎工場、仙巖園と巡り、皆さんの協力あって、終始、笑みの絶えない時間が過ぎました。

夜は、城山に場所を移し、親睦会を行いました。そこで、ベストプレゼンテーションが発表され、見事、当医局の福岩達哉先生「Application of microcrystalline cellulose as mucosal adjuvant」に決まりました。これは、私達医局員にとっても、大変喜ばしいことでした。先生は、今頃、アメリカの地で研究に励んでおられる事と思い、何だか、留学を前に有終の美を飾るといった感じがしました。

2次会は、私は、韓国の先生方のカラオケに参加させて頂きました。今、韓国日本の文化交流は密であり、互いに知っている歌が多々あるのに本当に驚きました。歌詞は違えども、メロディは全く同じであり、楽しく日韓交流の時は流れました。この場でも、当医局員達はハッスル振りを極め、特に、U飼先生、F岩先生の盛り上げ方には、並々ならぬ筋金入りの根性を見た気がしたのです。

とにもかくにも、今回は、皆様をお招きし、滞りなく、会が終了した事に医局員、スタッフ一同ほっと胸を撫で下ろした所です。

## 4. 関連病院便り

### 九州循環器病センター便り

森園 健介

皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

平成15年6月から九州循環器病センターに勤務している森園です。平成16年3月で当院に勤務して10ヶ月になりました。

この病院では頭頸部腫瘍の治療がメインになっており、これまであまり関わってこれなかった頭頸部癌の手術や、放射線療法・化学療法などの治療に接することができ、非常に勉強になりました。また、そうした治療を行っていくうえで重要になってくるさまざまな問題、例えば治療による副作用への対処、患者・家族への病状説明、コメディカルスタッフとの密接な連携といったことについても、これまでいかに自分が不勉強であり、十分に行えていなかったかを痛感させられました。

また、ある意味上の文章とも重なりますが、自分がこの病院にきて強く感じたのは、コメディカルスタッフの方々の意識が非常に高いことでした。

当院ではコメディカルスタッフとの連携を行っていくために、毎週月曜日午後に看護師、栄養士を交えて病棟カンファレンスを行っています。その際にスタッフの方々が患者さんの病状だけでなく、患者さん自身の心理状態や、家族や周囲の状況といった患者背景までも含めて把握しており、いかに一人一人の患者さんの医療の質を高めるかについて活発に討論を行っている様子には強く感銘を受けました。

そうした点は実際の医師の治療にも生かされており、看護師さんの意見でよりよい治療法があれば、それを積極的に取り入れて実践されていました。具体的には術後の処置について、当科では創部の消毒は術後2日目からは原則として行わず、経過観察のみ行っていくことになっております。これは僕の経験上ではありえない行為だったので、非常に驚きました。しかし、インターネット上で検索された資料などを拝見させていただき、納得せざるを得ませんでした。

そのほかにも術後の嚥下機能の低下が見られる患者さんに対して、嚥下訓練をいろいろと工夫して行ったり、食事内容を細かく設定していかに食事摂取を進めていくかといった、当たり前ではあるけれどもなかなか十分に行えないことを、高いレベルで実践できることが本当にすごいと思えました。

このようにこの病院では勝田先生・松崎先生といった先生方に加え、周囲のスタッフの方々から支援していただき、また多くのことを勉強させていただきました。この経験をよりいっそう今後の診療に生かしていきたいと思います。

## LETTER from AMAMI 2004

下麥 哲也

みなさん、いかがお過ごしでしょうか？

去年の6月から県立大島病院で、仕事をさせて頂いている下麥です。

この病院に来て、まず驚いたのは、飲み会の多さです。家の広さも、病院からの近さも、もちろん、なかなかのもので、驚くべきには値します。さて、その飲み会ですが、基本的には、歓迎会、送別会、忘年会からなります。ちなみになぜか、オフィシャルな新年会はありません。忘年会、新年会は年に1度ですが、歓迎会、送別会は、医者の交代が多い大島病院ならではの、数限りなくやってきます。あとは個人のレベルで、私もですが、アルコールが好きな先生は、なにかと理由をつけて飲んでいきます。さて、あまり飲み会の話をして、お酒が飲めない人には、つまらないので、県立大島病院について、御紹介させていただきます。

外来は、月曜から金曜までで、うち水曜日のみ終日外来日です。午後の手術あるいは検査までに、患者さんを待たせることなく、的確に診察、治療することは、とても大変です。

大島病院の外来患者さんは、小児が圧倒的に多く、さながら小児科外来のようです。私も最初は、そのパワーに圧倒されていましたが、慣れてしまえばかわいいものです。彼らのパンチやキックに対して、我々は鼻処置や耳洗浄で真向勝負を挑みます。当然激しい抵抗が待っているの、看護婦さんは外来終了後に、筋肉痛と戦っています。あとは時々、悪性腫瘍がやってきますが、とってとってアドバンスで、こちらもびっくりしてしまいます。あと、ときどき変な人もやってきます。外来はそんなところでしょうか。

手術日は現在、月・火・木・金曜日になりました。週3件程度の予定手術はつねにあり、気が付くと、1週間毎日手術してたりすることが、よくあります。大島病院も、麻酔科の先生はとてもフレンドリーで、際限なくどんどん手術を入れさせてもらいました。

そして、大島病院にも悪名高い救急当番があります。結構ヒマな時もあるそうですが、私は重症患者や、酔っ払い、変な人に多くあたる傾向があり、良い思い出はありません。大島病院の救急当番もひとりで、全ての時間外外来患者と、病院内の超緊急事態（主治

医到着までのつなぎなど)に対応するのが原則です。重症患者さんからは、医者として人間として、多くのことを学ばせて頂きました。酔っ払いや変な人から学べるのは、処世術ぐらいなものでしょうか？

いろいろ書きましたが、大島は私がいうまでもなく、手付かずの自然が豊富に残された、魅力あふれる素晴らしい土地です。離島という、特殊な環境ではありますが、それゆえに症例も豊富で、非常に勉強になる勤務地であると思います。そして多くの人との出会いがあると思います。機会があれば、もう一度勤務したい病院です。

## 県立北薩病院便り

大 城 浩

北薩病院に赴任して二年がたち、三年目の一人部長となりました。他科は二人体制や四人体制をとっておりうらやましく思うこともあります。どんな小さな疑問でも話し合える同僚がいたらいいのと思うこともあります。

北薩病院は鹿児島県の北海道と言われる大口市にあり、過疎が進んでいるため病院全体の外来患者数が減少し、どの様にして外来患者数を増やすかが、病院をあげて取り組む問題となっています。

今年の6月からは、売り上げを伸ばした医師、診療科には特別ボーナスをだすという事も試験的に始まる予定です。ほぼ全部の科が外来患者が減少しているなかで、耳鼻咽喉科も一時期患者数が減少した時期がありましたが、最近は増加傾向となっています。

病院の方針として、少しでも多く収益をあげるため、とれる点数はどんなものも漏らさずとるよう、検査を多くして収益を増やすようにはっぱをかけられます。

根本的な問題として、民間病院より人件費が多くかかるという点があり、今後民営化すべきなのかどうかという議論もあと2～3年で結論が出そうです。

公立病院の使命としては、売り上げを増やすよりも、どの様に地域住民の負担を減らしつつ、満足のいくサービスを提供できるかを考えるべきだということもありますが、いまの県の財政状況ではまず何よりも売り上げ増を追求するのも仕方のないことなのかもしれません。

## 県民健康プラザ鹿屋医療センター便り

谷本 洋一郎

私にとって初めての外病院である鹿屋に来て11ヶ月が過ぎようとしています。その前11ヶ月は同じ鹿屋の敬愛園に週二回ほど通っていたにもかかわらず、鹿屋市内には一度も足を踏み入れたことがなかったので、鹿屋ははじめても同然でした。鹿屋での約一年、平瀬部長をはじめとするスタッフにも恵まれ本当にいろいろな経験をさせていただきました。鹿屋医療センター耳鼻咽喉科は大隅半島の手術が必要な症例のほとんどが集まってくるため、手術症例も豊富で毎日が忙しくもありましたが、楽しくもあり、一年前を振り返って自分なりに成長できたのではないかと考えています。また外来日は午後3時4時まで永遠に続き、昼食をとる頃はもう夕方ということもよくありましたが、それだけに責任も重く、充実した日々を過ごすことができました。他科の先生との連携もうまく取れていて、いろんなところでお世話になりました。今後も鹿屋での経験を生かしつつ頑張っていきたいと思います。最後に平成15年度に鹿屋医療センター耳鼻咽喉科で行われた、手術の一覧を記載します。

### 耳症例 28例

鼓膜チューブ留置術	6例
鼓膜穿孔閉鎖術	12例
鼓室形成術	
慢性中耳炎	3例
真珠腫性中耳炎	3例
先天性耳瘻孔摘出術	4例

### 鼻症例 112例

鼻中隔矯正術	
下鼻甲介切除術	49例
E S S (P O M C 含む)	63例

### 咽喉頭症例 149例

扁桃摘 (U P P P 含む)	82例
アデノイド	13例
L M S	44例

舌口腔良性腫瘍	8 例
食道異物	1 例
気管支異物	1 例

## 骨折 14例

上顎, 頬骨, Tripod骨折	5 例
眼窩吹き抜け骨折	3 例
鼻骨骨折	6 例

## 頸部 58例

顎下腺摘出 (唾石含む)	7 例
耳下腺部分切除	13例
甲状腺良性腫瘍	8 例
頸部良性腫瘍 (Cyst含む)	17例
緊急気管切開術	13例

## 悪性腫瘍 (頸部郭清含む) 23例

舌悪性腫瘍	4 例
上咽頭悪性腫瘍	1 例
口腔中咽頭悪性腫瘍	4 例
喉頭悪性腫瘍	2 例
顎下線悪性腫瘍	2 例
耳下腺悪性腫瘍	1 例
甲状腺悪性腫瘍	7 例
耳介悪性腫瘍	1 例
原発不明悪性腫瘍	1 例

計 384 例 (339 人)

(入院総数 440 人)

## 耳鼻咽喉科領域の手術適応

## 1. 鼓膜切開

## ①急性化膿性中耳炎

- ・鼓膜の発赤膨隆が高度

- ・耳痛が強い
- ・高熱
- ・小穿孔のため排膿が不十分
- ・抗生剤治療に速やかに反応しない
- ・急性乳突洞炎などの合併症の存在
- ・免疫不全の小児

## ②滲出性中耳炎

1～2週間の保存的治療で鼓膜所見が改善しない

## ③高気圧酸素療法

- ・嚥下によっても治療中の耳痛が改善しない

## 2. 鼓膜換気チューブ留置術

### ①滲出性中耳炎

- ・抗生剤投与や耳管通気などの保存的治療や数回の鼓膜切開を約3ヶ月行っても改善が得られない。
- ・高度の伝音難聴

### ②反復性中耳炎

### ③高気圧酸素療法

## 3. 鼓膜穿孔閉鎖術

単純な小穿孔，感染のない中穿孔

## 4. 鼓膜形成術

- ①鼓膜が中穿孔以上あるいは大穿孔のとき
- ②穿孔縁から鼓膜上皮の回り込みがあるとき
- ③鼓膜穿孔閉鎖術で鼓膜閉鎖ができなかったとき
- ④パッチテストで聴力改善があまりなく，耳小骨連鎖の確認が必要であるとき

## 5. 鼓室形成術

中耳真珠腫，コレステリン肉芽腫，結核性中耳炎や一部の慢性化膿性中耳炎

## 6. 鼻中隔矯正術

- ①鼻中隔彎曲によってもたらされる鼻腔通気の障害や頻発する鼻出血，投射性の頭痛
- ②鼻腔形態の正常化，および手術ルート確保を目的とした手術

## 7. 内視鏡下副鼻腔手術

- ①慢性副鼻腔炎
- ②副鼻腔気管支症候群
- ③前頭洞，篩骨洞，蝶形骨洞などの副鼻腔嚢胞
- ④術後性上顎洞嚢胞

- ⑤副鼻腔真菌症
- ⑥視神経管骨折に対する視神経管開放
- ⑦鼻内的涙嚢鼻腔吻合術
- ⑧眼窩内側壁の骨折の整復
- ⑨鼻性髄液漏の閉鎖
- ⑩鼻腔，篩骨洞，上顎洞の内側より発生する乳頭腫などの良性腫瘍
- ⑪下垂体腺腫

#### 8. 口蓋扁桃摘出術

- ①習慣性扁桃炎
- ②病巣感染症
- ③扁桃肥大による摂食，構音，呼吸障害（睡眠時無呼吸症候群など）
- ④扁桃周囲炎および扁桃周囲膿瘍の再発予防
- ⑤扁桃角化症
- ⑥扁桃結石，嚢胞および過茎状突起症
- ⑦扁桃腫瘍

#### 9. 気管切開術

- ①気道閉塞に対して気管内挿管が不可能な場合
- ②気道閉塞に対する気道確保が長期間となる場合
- ③呼吸中枢麻痺などによる呼吸困難
- ④下気道の分泌物貯留
- ⑤嚥下性肺炎防止や薬液の気道注入療法
- ⑥摘出困難な気管・気管支異物
- ⑦気管内挿管麻酔による手術との関連

#### 10. 甲状腺手術

- ①甲状腺に腫瘍を認め，細胞診，画像診断などにて悪性の可能性がある場合
- ②良性の可能性が高い腫瘍であっても，大きさが3 cmをこえるもの

## 藤元早鈴病院便り

岩坪哲治

平成15年6月より前任の岩下先生にかわり私が赴任して1年が経ちました。

あいかわらずサイバーナイフの再開は決まっておりませんが、噂によると（院内の）そろそろ再開するのではないかとささやかれています。

当院はCT, MRI, ガンマナイフ, PET 等の設備が充実しており, PET 検診等も行われており, それに伴う院内, 院外からの咽喉頭頸部関連の当科への紹介も多く, 電スコ, エコーを耳鼻科専用で購入していただき重宝しております。また, 麻酔科常勤医が昨年度は不在で鹿大からの非常勤という形となったため, 手術日も火, 木の週2回午前中のみとなっております。また, それに伴い外来日も月, 水, 金終日となりました。7月以降は鹿大より麻酔科常勤の先生がいらっしゃる事が決定したとのことで手術日等変更になるものと思われます。

都城に耳鼻科で入院施設がある病院は当院と国立病院機構都城病院の2箇所のみであり, 当科の割り当てベッド数は3床ですが, 他科のベッドを借りながら入院患者様をお受けしている状況で, 周囲のご紹介いただいている先生方には入院をずらしていただいたりご迷惑をおかけしている状況です。

一人でばたばたしつつも, 多彩な症例を経験でき貴重な体験となっております。

今後とも, 周囲の先生方にご指導いただきながら目の前のことをひとつひとつこなしていきたいと思っております。

## 出水市立病院便り

関 大八郎

私が出水に赴任して早いもので4年になります。時代の流れに沿うように, 今年の2月からとうとう1人体制になり, 外来, 病棟, 手術, 急患, 土日の処置当番とすべてにおいて1人でしなければならなくなりました。地方病院とはいえ330床の病院ですので, やはり少しばかりしんどいです。少しずつ外来数を減らす試みはしていますが, なかなかうまくはいきません。できるだけ開業医を紹介することで対応していこうと思っています。とはいえ結構, 内科のついでに来る人も多いのが実状です。そういった人の半分くらいは, ほんとは受診する必要もないのですが, 診察希望を断ることもできずにいる

ところでは。

新幹線が開業し、鹿児島－出水間がなんと30分足らずで移動できるようになりました。定期券を買えば通勤や通学も可能になってきました。地方部会も、もっと参加できそうです。

さて、いつかまた2人体制になることを願いつつ、頑張りたいと思います。

## 済生会川内病院便り

上 村 隆 雄

昨年名古屋から鹿児島に帰ってきて一年、黒野教授にご配慮いただき、この4月より私の故郷にある済生会川内病院に赴任しました。ここ川内で中学時代まで過ごしましたので、25年ぶりにこの町で暮らすこととなります。今春3月から、九州新幹線つばめもこの小さな町にもやってきて、以前よりは駅前がにぎやかになってきた様子です。川内－鹿児島間もわずか10分足らずで行けるようになりました。10月には市町村合併により薩摩川内（さつませんだい）と名称が変わり、人口10万人（現在7万3千人）の町になるようです。

先日、外来を整理しておりましたら、過去の資料を発掘しました。昭和23年診療所として開院し、耳鼻咽喉科が開設されたのが平成元年ですので、今年で16年目を向かえたこととなります。これまでの先生方のご活躍により、地域の中核病院として確固たる役目を果たしていると実感しております。ただユニットをはじめ、ほとんどの器具が平成元年開設当初のシールがはってあり、いまだに現役で働いているのには多少驚いております。大学で最近の医療機器にすっかり慣れてしまった自分にとってはやはり不便で、患者さんへの説明、データの記録、操作性のことを考えると、少しずつ入れ替えていく必要性を痛感しております。

仕事は、外来・病棟・当直とまざまざのボリュームで、やや胃もたれげみです。夜が苦手(?)な私は、朝の時間を有効に使うようにして心がけております。4月から長男が小学生になったのを機に息子の通学時間に合わせて家を出て、7時40分にまずは病棟に向かい、8時30分からの外来開始までの時間を最大限に使うようにしています。4月当初は大変でしたが、大分時間に余裕が出てきた気がします。また、4月26日から再診の患者さんに対して予約制を導入し、待ち時間の短縮を図っています。

この地域は、鹿児島の多くの地域と同様に高齢者が多く、また乳幼児に対しても、都市部に比べて十分な医療が行われているとはいえません。まだまだ改善の余地が多く残

されており、自分の専門分野を生かして、少しでも地域に貢献できれば心はひそかに燃えております。

## 鹿児島生協病院便り

江川雅彦

生協病院赴任8年目を迎えました。医師生活の半分以上を当院にて過ごす事になります。

最近の動向・今後の構想を列举してみます。

- ① 相変わらず手を焼かせる子供が多いが、自分も成長して大人の対応(?)ができるようになりました。
- ② H16年4月より1人体制になりました。
- ③ 昨秋より外来が、今春より病棟が電子カルテへ移行しました。(もちろん医療秘書なし。オーダーリングに加えて医師所見も1人で打ち込み。)
- ④ そのため過酷な勤務を強いられている毎日です。土曜日はかなり多く、100人以上を診た4月10日11:00頃、トイレで倒れそうになりました。
- ⑤ 近い将来、退局する 때가来ると 思います。 今後は実家に帰って引き継いで頑張ろうと思っているのですが、場所柄、子供が少なく、OL・ビジネスマン・出勤前のおねーちゃんが多いです。患者新規獲得を狙って天文館へもっと出没する機会を増やす必要があるようです。親子そろって。
- ⑥ 自分のライフワークである嗅覚を臨床面でも充実させ、ニオイ・香りの医療面での普及・啓蒙活動に努めたいと思っています。
- ⑦ 私事で恐縮ですが、ようやく結婚できました。今のところはまだ斬新な生活を送っています。
- ⑧ 1人体制になって、周囲の方々のありがたみを切に感じています。生協病院のスタッフ・2人体制時代のDr(土器屋・相良・森園・唐木)には感謝したいと思います。ありがとうございました。

## 天 辰 病 院 便 り

河 野 もと子

天辰病院耳鼻咽喉科は、7年余りの間、新納えり子先生ががんばってこられました、昨年（平成15年）6月から新納先生のあとを私がつとめさせていただいております。

新納先生の人気が高かったためか、私の不徳のいたすところか、外来患者数がここ1年若干減少しているようです。平成15年5月から平成16年4月までの外来患者総数は12,517人で、1日あたり49.0人でした。当院の入院患者数は、大学への入院手術前後の期間の患者さんや、突発性難聴・顔面神経麻痺などの大学に収容しきれない良性疾患、急性炎症などの患者さんを、大学からご紹介いただくのが大部分で、平成15年6月から平成16年5月までの耳鼻咽喉科の入院患者総数は100人でした。その内訳は、突発性難聴19人、顔面神経麻痺4人、めまい5人、急性炎症鼻19人、出血4人、手術2人（扁桃摘1，リンパ節生検1），悪性腫瘍の術前・術後・放射線治療25人，良性疾患の術前・術後16人，緩和ケア1人，その他5人でした。前号の「さくらじま」で新納先生が、入院患者さんの診察が遅くなってしまうことがたびたびあると書いておられましたが、私もそのことを切実に感じました。そこで現在は、午前の外来受付を12時までとさせていただき、昼食後、午後2時の午後の外来診察開始までの間に入院患者さんの診察をできるだけさせていただくようにしました。時には午後の外来に食い込むこともありますが、入院患者さんにとってはよりよい体制になったのではと思います。

当科では従来のやり方による扁桃摘，鼻中隔矯正術，鼻茸切除，下鼻甲介切除等は可能ですが，なかなか手術症例はふえないところです。保存的に見ている鼻茸を伴った副鼻腔炎例は自分でしたいと思うこともありますが，硬性内視鏡下の手術ができる施設に送っているのが現状です。硬性内視鏡が備えてあればよいのですが，自分の skills とどれだけ症例があるかという経済性で設備を整えるか否か決めるべきなのでしょう。

昨年9月から緩和ケアのために入院されている口腔中咽頭癌の患者様がいます。局所の腫瘍は大きく広がっているのに遠隔転移は無く，長い経過をとっておられます。意識も清明でもコミュニケーションのとりづらいかたで，看護師の方々が温かく見守りつつケアにつとめてくれてありがたく思っています。緩和ケアについて自分自身もっと勉強しなければと考えさせられています。

最近高血圧と高脂血症をもつ79歳女性のめまいの患者さんをみました。景色が前から後へ流れるようなめまいを訴え，椎骨脳底動脈循環不全を疑ってMRI・MRAをとりましたら脳底動脈分岐部の動脈瘤が見つかりました。めまいに対する苦手意識がちょっと興味に変わりました。

最後に、当院は近々病院機能評価機構の機能評価をうけるべく、樺山師長を中心に準備を進めています。文書化した指針やマニュアル作り、組織作りががんばっておられ、その御苦勞には頭が下がる思いです。建前だけでなく実の伴う優れた病院になることを期待していますし自分もその中の一人として貢献しなければと背筋を正しております。

## 今村病院分院便り

早水佳子

平成15年6月1日～平成16年2月29日の約9ヶ月の間、勤務させて頂きました。当診察室は、天井が高く広々としており、また、診察ユニット、処置室、ネブライザー室と大きく3つの部屋が確保されています。かなり診察環境が整っており、耳鼻科専用の休憩室までありました。当スタッフは、私の他に、看護師1名、クラーク1名の計3人でした。

午前診察は、月曜から土曜まで毎日行われ、午後診察は、火曜日と金曜日のみでした。毎朝、8時半から9時の間は、入院患者の処置を行い、9時より外来診療をスタートさせていました。特に、検査日等は設けなかったため、初診のその日にエコーや、造影CTまで行うことも多々あり、スタッフはきっと、大変だったろうと思います。

火曜日の午前中は、予約患者さんを除いては休診とし、手術に割り当てました。主に、口蓋扁桃摘出術、UPPP、気管切開、リンパ節生検、内視鏡下鼻内副鼻腔手術を行いました。嬉しい事に、毎週手術を組む事が出来、局所麻酔の場合は、大体タテ2～3件を行いました。当院は、血液内科がとても有名であったため、リンパ節生検は、突然に直接、内科の先生より電話が掛かってきては、バタバタと術前検査を行うという状態でした。

全身麻酔は、大学病院の麻酔科より派遣してもらうため、安心して手術に臨む事が出来ました。また、私の力量が足りない場合は、医局長を介し、応援を頼む事が出来たため、副鼻腔炎などは大学に負けず劣らずの手術加療が出来たのではないかと思います。

睡眠時無呼吸に対する診療もかなり本格的に行う事が出来、終夜睡眠モニター検査は、大学で行われている AliceⅢと同じレベルを施行出来ました。手術加療が最適と言う場合は、当科でそのまま入院予約とし、CPAP 適応例の場合には、呼吸器内科と連携の上行い、オーラルスプリントの場合は、歯学部矯正科に御紹介としていました。

近医にある、医師会病院は、昨年4月より高気圧酸素療法がスタートし、それに伴い、一番近い耳鼻科として、往診鼓膜切開の依頼がかなり頻繁でした。その度、外来診療の

合間を見て、看護師とともに出掛けます。辛かったのは、救急指定病院でもある医師会病院は、状態の悪い患者さんを、夜間に高圧酸素加療に掛けるため、直接携帯が鳴っては、鼓膜切開の依頼があり、夜中に一人で真っ暗な中、今村へと器具を取りに行き、医師会に足を運ぶという状態でした。

当院は、託児所があるため、看護師の皆さんが大勢仲良く揃って、毎朝9時前後に診療に訪れます。これは、私にとって、とても楽しく、賑やかな時間でした。小児の診察方法も、かなりこの場で鍛えられました。

私は、この時3年目であり、実の所、当院は、私の肩には少し責任重大で辛い時もありました。個人病院とのこともあって、投書箱に「待ち時間が長い。」とのコメントを頂き、頭を下げた事もありました。逆に、良きお言葉を頂く事もあり、一喜一憂しながら、あっという間の月日でした。自分自身、大きく成長出来た場であり感謝しています。

## XI. 関連病院

(平成16年4月現在)

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
国立病院九州循環器病 センター	892-0853	鹿児島市城山町8-1 TEL:099-223-1151 FAX:099-226-9246	月・水・金 (8:30～11:30)	月～金
国立療養所星塚敬愛園	893-0041	鹿屋市星塚町4204 TEL:0994-49-2500 FAX:0994-49-2542	火・木 (8:30～17:00)	
県立大島病院	894-0015	名瀬市真名津町18-1 TEL:0997-52-3611 FAX:0997-53-9017	月～金 (8:30～10:00)	火・木・金
県立北薩病院	895-2526	大口市宮人502-4 TEL:0995-22-8511 FAX:0995-22-6783	月～金 (8:30～11:00)	水・木
県民健康プラザ 鹿屋医療センター	893-0011	鹿屋市打馬1-5-10 TEL:0994-42-5101 FAX:0994-44-3944	月・火・水・金 (8:30～10:30)	月の午後 木
鹿児島市立病院	892-8580	鹿児島市加治屋町20-17 TEL:099-224-2101 FAX:099-223-3190	新患 月・水・金 再診 火・木 (8:30～11:00)	月・水・金
出水市立病院	899-0131	出水市明神町520 TEL:0996-67-1611 FAX:0996-67-1661	月～金 (8:30～11:00) 木のみ (再診) (14:00～16:00)	火・水・金

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
今給黎総合病院	892-0852	鹿児島市下竜尾町4-1 TEL: 099-226-2211 FAX: 099-222-7906	月・水・金 (8:30～16:30) 火・木・土 (8:30～11:30)	月～金
済生会川内病院	895-0074	川内市原田町 2-46 TEL: 0996-23-5221 FAX: 0996-23-9797	月～土 (8:00～11:00) 月・金のみ(再診) (14:00～16:30) 水の午後 第1・第3 特殊検査 第2・第4 補聴器外来 (14:00～16:30)	火・木の午後
鹿児島生協病院	891-0141	鹿児島市谷山中央 5丁目20-20 TEL: 099-267-1455 FAX: 099-260-4783	月・火・木・金 (8:30～17:30) 水・土 (8:30～12:30) (新患は30分前まで)	火・水・木 の午前
今村病院分院	890-0064	鹿児島市鴨池新町11-23 TEL: 099-251-2221 FAX: 099-250-6181	月・金 (8:30～17:10) 火・木 (14:00～17:10) 土 (8:30～11:30)	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
藤元早鈴病院	885-0055	都城市早鈴町17-1 TEL: 0986-25-1212 FAX: 0986-25-8941	月・水・木・金 (9:00～17:00) 火 (9:00～11:00)	火の午後
市比野記念病院	895-1203	薩摩郡樋脇町市比野3079 TEL: 0996-38-1200 FAX: 0996-38-0715	火・木 (14:00～18:00) 土 (9:00～18:00)	
あまたつクリニック	891-0175	鹿児島市桜ヶ丘4-1-6 TEL: 099-264-5553 FAX: 099-264-1771	月・水・金 (9:00～18:00) 火 (14:00～18:00) 土 (9:00～13:00)	火の午前
垂水中央病院	891-2124	垂水市錦江町1-140 TEL: 0994-32-5211 FAX: 0994-32-5722	火・木 (13:30～16:00) 土 (8:30～11:30)	
加治木温泉病院	899-5241	姶良郡加治木町木田字 松原添4714 TEL: 0995-62-0001 FAX: 0995-62-3778	月・火・木 (13:30～16:30) 土 (8:30～11:30)	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
田上病院	891-3198	西之表市西之表7463 TEL: 09972-2-0960 FAX:09972-2-1313	火 (9:00～17:30) 水 夏(14:00～17:00) 冬(14:00～16:20)	
阿久根市民病院	899-1611	阿久根市赤瀬川4513 TEL: 0996-73-1331 FAX:0996-73-3708	火・金 (8:30～15:30)	
鮫島病院	891-0406	指宿市湯の浜1-11-29 TEL: 0993-22-3079 FAX:0993-22-3019	火・木 (8:30～17:30) 水(13:30～17:30) 土(8:30～12:00)	
栗生診療所	891-4409	熊毛郡屋久町栗生1743 TEL: 09974-8-2103 FAX:09974-8-2751	第1・第3 金(8:00～16:00) 土(8:00～10:00)	
豊永耳鼻咽喉科	868-0037	人吉市南泉田町120 TEL: 0996-22-2031	第2・第4 土(9:30～15:00)	
鹿児島厚生連病院	890-0061	鹿児島市天保山町22-25 TEL: 099-252-2228 FAX:099-252-2736	火・金 (8:30～17:00)	

# 目

# 次

巻 頭 言	1
I. 同 門 会	3
II. 教室来訪者	5
III. 教室行事	
1. 共催の講演会	6
2. 第9回5大学耳鼻咽喉科ジョイントミーティング	9
3. 第6回「耳鼻咽喉科桜島フォーラム」	15
4. 第4回 鼻の日 市民講座	16
IV. 同門会報告	17
V. 地域医療報告	
1. 巡回診療	19
2. 身体障害者巡回相談	19
3. 学校保健（統計報告）	19
VI. 特殊外来通信	
1. アレルギー外来	22
2. 中耳炎外来	22
3. 副鼻腔炎外来	22
4. 頭頸部腫瘍外来	23
5. 補聴器・難聴耳鳴外来	25
VII. 病理集計	27
VIII. 各省庁諸研究	28
IX. 業 績	
1. 原 著	29
2. 総 説	30
3. その他	30
4. 国内学会発表	31
5. 国際学会発表	39
6. 学術論文要旨	41
X. 医局通信	
1. 新入医局員紹介	43
2. 医局人事	44
3. 学会報告	
① 第15回日本喉頭科学会総会・学術講演会（秋田）	45
② 第15回日本アレルギー学会春季臨床大会	45
③ 第104回日本耳鼻咽喉科学会・学術講演会	46
④ 第23回気道分泌研究会（2003.5.31）に参加して	46